

同	第三回製	同	同	同	同	同	同	同	同
同	第五回製	同	同	同	同	同	同	同	同
同	第四回製	同	同	同	同	同	同	同	同
同	第一回製	同	同	同	同	同	同	同	同
同	第四回製	同	同	同	同	同	同	同	同
同	第三回製	同	同	同	同	同	同	同	同
同	第二回製	同	同	同	同	同	同	同	同
同	第一回製	同	同	同	同	同	同	同	同
同	計	同	同	同	同	同	同	同	同

岩海苔製造試驗

本試驗ハ沿岸岩礁ニ産出スル岩海苔ノ利用ヲ目的トシ原料ノ品質種類ニ應ジ抄製又ハ佃煮製トシ其製法市價嗜好等ニ就キ研究シタルガ其結果沿岸漁民ノ間ニ漸次本品ノ生産ヲ志スモノアルニ至リタルヲ以テ本試験ハ本年度ヲ限り廢止シ專ラ其指導ニ任ゼントス以下本年度試験シタル處ヲ記スベシ

(一) 葉肉硬剛粗質ナル岩海苔ノ利用

前年ハ岩海苔ノ葉肉厚ク硬剛ナル種類ヲ用ヒ生海苔ノ儘佃煮製トシタリシモ斯クテハ其ノ時期ノミノ製造ニ止マリ漁民ノ業閑ヲ利用シテ隨時製造スルニ適セズ又佃煮ハ其ノ性質他ノ食品ニ比スレバ一時ニ多量ニ食用セラル、モノニアラズ貯藏期必ズシモ永カラズ從ツテ一時ニ多量ノ製造ヲ遂グルハ需要並ニ貯藏ノ關係ヲ考慮シタル手段ニアラズサレ

バ時期ニ際シテハ生海苔ヲ採收シばら乾海苔トシテ多量ニ貯藏シ注文ニ應ジテ其都度使用製造スルハ好マシキ方法ニ屬セリ本年度ハ此目的ニ添ハン爲先ばら乾海苔ヲ原料トシテ佃養ヲ製造シ品質及生産費ヲ調査シ生海苔ヲ用ヒタル場合トノ關係ヲ考査シ別ニばら乾海苔其儘ノ販路ヲ佃養罐詰業者ノ間ニ拓フ得ベキヤ否ヤニ就キ研究スル處アリ試験ハ大正七年二月十三日ヨリ全十七日マデノ間ニ縣下川邊郡西南方久志ニ於テ當業者ノ製造指導ヲナス傍施行スル事トシタルガ當時久志地方ノ沿岸ハ薄葉原料ノミ殘存シ目的ノ原料ハ已ニ老廢シテ用ヲナサバリシヲ以テ止ナクばら乾海苔製造ヲ見合セ當業者ガ製造シタルばら乾海苔ヲ購入シテ原料トシ(其一)一部ヲ以テ佃養製トシ一部ヲ其儘ニテ東京府下ニ於ケル海苔佃養罐詰業者ニ送致シ罐詰原料トシテノ適否並ニ取引ニ關スル意見ヲ徵シタリ以下順次之ヲ記スベシ

佃養製造

原料トシテ當業者ノ製造ニ係ルばら乾海苔百三十六匁五升七合ヲ購入シ内百十六匁ヲ使用シ大要前年ト同一方法ニ依リ(製法ニ於テ異ル點ハ第二液煮熟ヲ行ヒ其ノ將ニ煮了セントスルニ先チばら乾海苔ノ一部ヲ炙乾シ揉碎シテ混入シタル點ナリ)佃養ヲ製造シ製品正味九百四十匁ヲ得タリ

此ノ製品ヲ試食スルニ生海苔ヲ原料トシタルモノニ比スレバ味落付(俗ニ云フ水臭カラズ)香氣ヲ有シ食スルニ際シ糊分樣感覺少ク品質佳ナルヲ認メタリ依テ右ヲ罐詰料トシテ東京府下斯業者ノ主ナル者ニ就キ需用ノ如何ヲ調査シタルニ一般ニ佃養トシテハ取引ヲ希望セザルガ如シ然モばら乾海苔ハ同罐詰原料トシテ充分ニ適當セリト云フ之ヲ見レバ同罐詰製造業ノ利益ガ多ク此間ニ成立スルヲ窺フニ足ルベク故ニ本縣當業者トシテハ新ニ本品ニヨリ佃養罐ヲ製造スルノ利益ヲ想到シ得ザルニアラザルナリ今次ニ製造諸費ヲ示サン

佃 養 製 造 表

材 料	使 用 料	單 價	價 格	備 考
醬油	二 升	一 升 三〇〇	六〇〇	醬油ハ尙ホ上等ナルヲ使用スルヲ宜シトス
中白砂糖	六拾五匁	一〇五	一〇五	
うるめ節	五拾匁	一八〇 <small>弱</small>	〇九〇	
薪	一 把	〇三〇	〇三〇	
原料ばら海苔	百拾六匁	一〇〇	一〇〇	
計	製品 九百四拾匁		九二五	殘汁二升五合

製品ノ大部分ハ鹿兒島市内ニ試賣シ百匁ニ付拾貳錢ナリシヲ以テ製品全量ノ價格ハ壹圓拾貳錢八厘トナリ生産費總額九拾貳錢五厘ニ比スレバ貳拾錢三厘増ヲ示シ別ニ殘汁二升五合ヲ有スルヲ見ル

ばら乾海苔ト佃煮罐詰用原料 ばら乾海苔ノ貯藏ハ自用ヒテ罐詰業ヲナスモ宜シカルベク又多量ノ産額アラバ進デ之ヲ佃煮罐詰業者ニ供給スルモ可ナラント思ハレタルヲ以テ前條川邊郡當業者ノ製造シタルばら乾海苔ノ一部ハ見本トシテ左記ニ配付シ其取引並ニ價格ニ付キ意見ヲ徵シタルニ品質ハ概シテ好適シ價格ハ一貫貳圓八拾錢内外ニテ取引ヲ申込ミ來ルモノ有ルニ至レリ今次ニ之ヲ配付シタル願末ヲ概記スベシ

記

一、見本品ハ佃煮罐詰原料トシテ使用シ得ルカ

二、取引値段

三、本品ヲ佃煮製トシタル者ヲ罐詰料トシテ取引スルヤ

右當場ノ問合ニ對シ東京府下ニ於ケル當業罐詰業者ノ主ナルモノヨリ次ノ回答アリ

東京府下荏原郡六郷村乾海苔全佃煮罐詰製造業

竹 内 友 次 郎

一、見本品ハ海苔罐詰原料ニ適當ス

二、貴所ニテノ決着値段通知有度引合ハ注文致シ度シ

三、當店ニテハ乾物ニテ取引致度シ製造シタルモノハ希望セズ

東京府下大森町乾海苔全仰煮製造罐詰業

田 中 彌 次 右 衛 門

一、値段ニヨリ取引シタシ

一、當方値段ハ壹貫匁貳圓八拾錢見當ナリ

一、見本少量ニシテ實驗シ得ザル故至急一貫目許送付アリタシ

東京府下大森町海苔仰煮罐詰製造業

竹 田 新 藏

回答ナシ

(二)抄製及紙付海苔ト投抄法

淺草海苔ノ如キ葉肉薄ク葉廣キ品種ヲ原料トスル場合ハ現今各地ニ行ハル、投抄法ヲ宜トスレモ岩海苔ハ之ニ反シ葉狹ク殊ニ本縣ノ如キ暖國産ハ多ク葉肉厚ヲ以テ投ゲ抄キ法ニ比シ反テ掬ヒ抄法(家鴨付ケ法)適當ニアラザルカト考ヘラレタルヲ以テ之ヲ比較セント欲シタルモ恰モ前項述べタル如ク之ニ適當シタル原料ヲ得ズ皆切刻ヲ要セザル細原料ニシテ比較的價值少カリシモ生産量及其時間等ヲ知ランガ爲メ次ノ如キ試驗ヲ行ヒ更ニ久志地方ニ行ハル、紙付海苔(在來製法)ト投抄法ニ付キ得失ヲ比較シタリ

抄製法 原料岩海苔參百四拾匁ヲ二分シ一部ヲ投ゲ抄法ニヨリ殘部ヲ掬ヒ抄キ法(家鴨付法)ニヨリ海苔製造講習者ヲシテ行ハシメタルニ前方ハ生産量ニ於テ勝リ時間ニ於テ劣リタル結果トナレリ成績或ハ然ルベカランモ施行量少キ

岩海苔製造試驗

ト從業ノ技倆未熟ニシテ固定セザル等ノ點アルヲ以テ頓ニ斷ジ難キモノアレモ記シテ參考トス

抄法比較表

抄法	事項	原料		製品		時間	從業者
		枚數	重量	枚數	重量		
投ケ付	一七〇匁	十三枚	一九匁	九分	講習女		
掬ヒ付	一七〇匁	十一枚	一八、五分	七分	全		
差		二枚		五分			

紙付海苔ト投抄法

縣下川邊郡久志地方薩摩郡甌島地方ニハ從來行ハル、岩海苔製法ニ紙付法アリ尤モ良好ナ

リトハ云ヒ難キモ製法ニ合理ノ點アリ製品ノ色澤惡シカラズ岩海苔抄製法トシテハ亦一種ノ方法トシテ研究ヲ要スベキヲ以テ之ヲ投ゲ抄キ法ト比較シ得失ヲ考查スル資料トシテ次ノ如ク行ヒタリ

原料ハ總計二升五合二百七拾匁ニシテ之ヲ等分シ一部ヲ久志當業者ニ與ヘ紙付法ヲナサシメ殘部ヲ海苔製造講習者ニ與ヘ投ゲ抄法ヲ取ラシメ各自ノ製造ニ任シ製品ノ作製ヲナサシメタル結果次表ノ成績ヲ示シタリ

紙付法及投抄キ法比較表

紙付法	原料	製品		一枚平均重	大サ	價值	段	備考
		枚數	重量					
投付法	一三五匁	三十九枚	六十六枚	一匁七分弱	半紙大	二十枚十五錢		製造ニ時間ヲ多費ス
投付法	一三五匁	五十五枚	六十四枚	一匁一分強	東京型大判	十枚十錢		

鹿尾菜製造試驗

試驗ノ趣旨 本縣ニ於ケル鹿尾菜(ひじき)は沿岸到ルトコロニ叢生シ産額頗ル豊富ニシテ之ガ利用ヲ計ランカ新

タニ有力ナル水産業ヲ形成スベク漁民ノ福利ヲ増進スル鮮少ナラザルモノアリト思考セラル、モ從來ニ於テハ知ルモノ少ク適當ノ利用ヲ見ズ僅カニ一部沿岸住民ノ間ニ採食セラル、ノミニテ大体天然ニ委棄セラル、状態ニ在ル千葉三重長崎諸縣ニ於ケル利用程度ニ顧ルトキハ眞ニ天惠ヲ空フスルモノトシテ遺憾ヲ呼バザルベカラズ茲ニ於テ本場ハ本年度ヨリ之レガ試験ニ着手セルモノナリ

試験ノ經過及成績 試験地ハ縣下出水郡西長島村城川内ニ定メ大正六年五月十六日ヨリ六月五日ニ至ル間ニ施行シ同地飯尾市次所有水車場内ニ徑三尺ト二尺八寸ノ有甑鑿釜各一個ヲ裝スル在來竈ヲ急造シテ蒸熟場トシ別ニ鹽菰

池ヲ堀穿シ水車樋ヨリ引水シ池ヲ通ジテ流失セシメ又同氏所有ノ小屋ヲ借入レ作業場及貯藏場トシ試験ニ着手シ原藻二千六百斤ヲ前後十七回ニ分チ内房州式製法十四回蒸養法二回早養法一回ノ試験ヲ爲シ製品七梱(七百三十一斤)ヲ得之ヲ東京ニ試賣シ原料費十五圓四十餘錢ニ對シ製品代五拾九圓拾餘錢ヲ收入シ有望ナル前途アルヲ認ムルヲ得タリ以下經過ノ詳細ヲ順次記述スベシ

生藻ノ乾燥耗

製造原料トシテハ生藻、乾藻トモ並ビ用ラル、モ生藻ハ常時使用スルコト困難ナレバ乾藻ヲ原料トスルコト普通ナリ依テ各種試験ニ着手スルニ先チ生鹿尾菜ヲ乾燥シ歩留程度ヲ實驗セリ

西長島村城川内沿岸ニ産スル原藻ヲ刈集シ大正六年五月十八日午前十時陸揚シ百斤ヅ、ヲ取り海岸礫原三ヶ所ヲ撰ビ方約二間半ニ擴ゲ同午前十一時ヨリ晴天ニ乾燥シ翌十九日再ビ晴天ニ乾燥シ一回手返ヲナシ午後三時取集メ秤量シタルニ左表ノ如ク鹿尾菜ノ生草ハ日乾約一日半ニテ充分貯藏ニ堪フル乾燥程度ニ達シ其重量ハ原重ニ比シ一割八分ノ歩

留ヲ示セリ勿論原藻ノ厚肥、葉空胞ノ多少等産地的關係ハ必シモ之ニ等シカラザルベキモ本縣産原藻ノ歩留トシテハ如上程度ノモノト認メ大過ナカルベシ

生 藻 乾 燥 表

試 驗 番 號	生	藻	乾	藻	平	均	步	留
第 一		一〇〇斤		一八、五斤		一八、〇斤		一割八分
第 二		一〇〇斤		一八、〇斤				
第 三		一〇〇斤		一七、〇斤				

鹿 尾 菜 製 造 法

鹿尾菜ノ製品ニ數種アリ製法モ種類ト共ニ多少相違スル所アリ茲ニ謂フ製法ハ鹽拔鹿尾菜ニシテ伊勢方面ニ行ヘルモノト房州方面ニ行ハル、モノトハ多少形式ヲ異ニセリ本試驗ハ先ヅ房州式製法ニ由リ製造ヲ試ミタルモ煮熟ニ七八時ヲ要シ一日ノ生産量僅ニ二釜ヲ限リトシ燃料勞役ノ損失多キヲ以テ煮熟ヲ早成スベキ方法ヲ案ジ順次行ヒタルニ幸ヒニシテ試験ノ最後ニ於テ醋酸法ニ由リ著大ノ効果アルヲ發見シ始メテ前途ニ一縷ノ光明ヲ認ムルニ至レルモ時已ニ梅雨季ニ入り日乾不能トナリタルヲ以テ本年度製造ハ茲ニ中止スルコト、セリ

(一) 房 州 式 製 造 法 試 驗

鹽 拔

原藻ハ生藻タルト乾燥タルトニ係ハラズ凡テ食鹽其他潮解性鹽類ヲ含有スルガユヘ之ヲ除去スルタメ水ニ漬ケテ鹽拔ヲ行フ其法ハ先ヅ原藻一定量ヲ鹽拔地ニ投ジ乾燥ノ場合ハ水中ニ入りテ藻ヲ踏ミ能ク水ニ接觸セシメ藻上ニ

ハ所々板ヲ浮ベテ鑽石ヲ置キ原藻ヲ全ク水中ニ沈メタル後池ノ前端導水開ヲ開キテ水ヲ導キ池ノ後端排水孔ヨリ汚水ヲ流出セシメ適當ノ時間ヲ經テ原藻ヲ引上グ池水ノ流勢弱キモノハ藻ヲ一回淡水ニテ清流スルヲ宜シトス

糞熟 糞熟ハ製造操作ノ主要ナル部分ニ屬シ經濟關係亦最大ナリ鹿尾菜ハ有用海藻中纖維含量最モ多ク質硬剛ナルヲ以テ之ガ軟化ヲ圖ラザル限リハ到底食用ニ適セズ普通行ハル、軟化法ハ蒸氣又ハ熱水ヲ介シテ長時間加熱スルモノ

ニシテ伊勢ハ前者房州ハ後者ニ屬シ本試驗ハ大体後者ニヨリ行ヒ釜ニハ初メ鏝側迄水ヲ入レ沸騰シタルトキ水切シタル原藻ヲ投入レ蒸ニテ蓋ヲ爲シ加熱ヲ繼續ス原藻投入ノタメ一旦止マリシ沸騰ハ暫時ニシテ再起スルニ先チ原藻ハ下部ニ鬱積セル蒸氣ノ壓力ニヨリ猛然トシテ釜ノ表面以上ニ隆起シ來リ藻間ヨリ湯ヲ奔騰ス此機ヲ利用シ藻層ノ上下面ヲ轉換シ竈下ノ火ヲ減ジテ火勢ヲ緩ナラシメ時々藻層ヲ轉換ヲ行ヒ七八時間ノ加熱ヲ爲ス時ハ軟化糞了セラル、ヲ以テ引上ゲ液ヲ滴下シテ切刻ニ移ス但房州ノ方法ニ於テハ糞熟ト共ニ藻容積減ズルニ從ヒ新藻ヲ補充シ其夜ハ焚火ヲ殘シタル儘莖ヲ蔽ヒ石ヲ載セテ一夜ヲ熱水中ニ醃蒸シ翌朝引揚グルモノナリ

切刻 糞上リタル原藻ハ臺上ニ取り庖刀ニテ適宜ノ大サニ切斷シテ箆ニ入レ側ヨリ順次乾燥場ニ運ビ莖上ニ擴散シ

日光ヲ受ケシム長サハ二寸程度ヲ可トスルモ切屑ヲ生ズル患アルヲ以テ寧ロ撒布シ易キ程度ニ切ルヲ宜シトス

乾燥 乾燥場ハ豫メ莖ヲ敷キ詰メ切刻終リタルモノヨリ順次乾燥ニ附ス朝釜揚シタルモノハ午前十一時頃ニ手返シ

ヲ爲シ午後三時頃ニハ乾了スルユヘ陰所ニ取入レ放冷ス

仕上及荷造 製品乾了シタルトキハ葉空胞等ハ藻軸ヨリ脱落スルユヘ藻幹ノミヲ莖俵ニ收容シ殘部ハ篩分シテ所

謂ひじきの花ヲ分別除外シ良品ノミ俵ニ加フ俵ハ胴圍ヲ莖一枚作リトシ凡ソ百斤入ヲ標準トシタリ内部ニハ新聞紙ヲ敷キ製品ヲ一團ヅ、分取シテ順次俵ノ内容ヲ充填シ各部ニ平均シタル收容ヲナシ豫定ノ内容ヲ得タルトキハ新聞紙ニテ表面ヲ蔽ヒ俵ノ小口ヲ閉ヂ繩ニテ緊縛シ荷造ヲ了フ

上記製法ニヨリ試験セルハ前後十四回ニシテ其概況左ノ如シ

房州式製法試験表

回	月	日	天候	原	藻	薪	量	人	夫	製	品	層	備	考	
第一回	五月	十七日	晴	古	二〇〇斤	甲釜 五、五 乙釜 五、五	六、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四	古藻ハ前年豫備試験ノタメ買入タル繰越品ナリ		
第二回	同	十八日	同	全	二〇〇	五、〇〇	六、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			
第三回	同	十九日	同	生	二〇〇	五、〇〇	五、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			
第四回	同		同	全	二〇〇	三、〇〇	三、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			
第五回	同	二十一日	同	乾燥	二〇〇	四、〇〇	四、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			
第六回	同	二十二日	同	全	二〇〇	四、〇〇	四、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			
第七回	同	二十三日	同	全	二〇〇	四、〇〇	四、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			
第八回	同	二十四日	同	全	二〇〇	四、〇〇	四、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			
第九回	同	二十五日	同	全	二〇〇	四、〇〇	四、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			
第十回	同		同	全	二〇〇	四、〇〇	四、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			カルゴ造リノタメ男一人増
第十一回	同	二十六日	同	全	二〇〇	四、〇〇	四、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			同
第十二回	同	二十七日	同	全	二〇〇	四、〇〇	四、〇〇	全全	二一	二一	二〇、〇	一七、四			

第十三回	同二十九日	同	全	100	4,000	全	二人	三、九	三、四
第十四回	同三十日	雨晴	全	100	4,000	全	二人	三、九	
計									

尚ホ同上試製ニ付 所要時間ヲ表示スルハ左ノ如ク

回	月	日	原	料	搥拔時間	蒸熟時間	釜	揚	時	撤布日	乾時	産	數
第一回	五月	十七日		200	10、5	8、5	十八日	午前九時		十八日	午前十時半	6、半	6
第二回	同	十八日	生藻	200	14、0	8、5	同	午后五時				6	6
第三回	同	十九日	同	400	3、0	3、0	十九日			二十日		6	6
第四回	同	十九日	同	400	3、0	れかし釜	二十日			二十日		6	6
第五回	同	二十一日		200	11、0	8、0						6	6
第六回	同	二十二日		200	13、5	8、0						6	6

(第七回以下省略)

各回試験ノ經過ハ上表ノ如ク之ヲ概括スレバ蒸熟ニ七八時間ヲ要シ一晝夜蒸煮ヲ併用スルモ僅カニ一釜二回ノ生産ヲ爲スニ過ギ 薪ハ籠一基ニ付キ一日費消四締以上ニ達スルヲ以テ低廉ナル原料ヲ要シ運賃少キ近距離ノ地ニ需用先ヲ有セザル限リハ收支ノ調和ヲ望ムベカラザル如ク本縣營業者ニハ直チニ勸奨シ能ハザルトコロナリ

(二) 蒸 煮 法 試 験

普通法ハ其儘直チニ本縣ニ適用セザル因由ニ考ヘ原料ヲ速カニ軟化シ煮熟操作ヲ旺シナラシムル手段トシテ原料ヲ收容シタル釜水ノ沸騰起後二時間内外ノ煮熟ヲ行ヒ爾後蒸煮ニヨリ其目的ヲ達シ得ベキヤニ就キ五月二十日及六月二日ノ兩回試験ヲ爲セリ

第一回試験 本年度鹿尾菜製造試験從事ニ先チ房州式製法ノ外更ニ適當ノ良法ヲ案出セントシ計劃シタルハ即チ

本法ニシテ爲メニ築竈當時釜ノ背後ニ竈ト相通シタル坑ヲ作り甕ヲ藏シ(初メハ釜ト竈トハ相通スルコトナカリシモ)釜中ニテ二時間煮熟ヲ行ヒタル後ハ甕中ニ入レテ蒸煮シ更ニ釜ニハ新原料ヲ收容シテ煮熟スル如ク相代謝シテ生産量ヲ多カラシメントシ設備セリ依テ本試験ニ當リ煮熟シタルモノハ甕ニ收容シ施蓋シ新原料ヲ釜中ニ收容煮熟スルコト約二時間偶釜ノ餘熱過大ノタメ突然甕ハ破壊シ汁液ハ竈下ニ奔出シ滅火セシタメ頓カニ豫定ヲ變シ釜中ニ收容蓋ヲ密閉シテ其儘一夜ヲ蒸シ翌朝之ヲ檢シタルニ軟化能ク行ハレ居レリ

第二回試験 六月二日原藻二百斤ヲ用ヒ同日正午浸水シ午後三時半取出シ清水ヲ注ギ清メタルモノヲ二分シ甲

乙兩釜ノ沸湯中ニ投ジ徐々ニ煮熟スルコト二時間ノ後甲ハ午後五時半乙ハ同六時焚火ヲ中止シ原料ヲ其儘釜中ニ置キ一夜ヲ經三日之ヲ檢シタルニ兩釜共充分軟化シ指間容易ニ潰ヘ葉空胞ノ如キ硬剛ノ部モ軟化シ濃厚ナル赤褐色ニ變シ煮熟セラレタルヲ認ムルニ至レリ

回	月 日	天候	原 藻	薪 量	人	夫	製 品	層 品	備 著
第一回	五月二十日	晴	二〇〇斤	甲乙釜 四〇〇 <small>薪</small>	女 二 男 一	二人	四八、二斤		
第二回	六月二日	半晴	二〇〇	二、五〇	女 一 男 一	二人	六〇、一斤		
計			四〇〇	六、五〇	女 三 男 一	四人	一〇八、三斤		

即チ蒸煮法ハ沸騰後約二時間ノ煮熟ニヨリ軟化セシメ得ルガユヘ燃料ハ普通法ノ半量ニテ足ルモ醃蒸ニ長時間ヲ要スルヲ以テ結局所要時間ハ短縮セラレザルナリ

(三) 軟化速成試験

前試験ノ結果ニヨリ更ニ其時間ヲ短縮スベキ早煮法ニ想到シ醋酸及曹達ヲ注加シタル沸騰中ニ煮熟シ原藻軟化ヲ比較セシニ醋酸加用ハ煮熟四十分ニテ能ク目的ヲ達シ曹達加用ハ其効果ナキヲ認メタリ

原料ハ前試験ニ用ヒタルモノト同ジク其百五十二斤ヲ取り六月二日午後七時脱鹽池ニ浸漬翌三日午前九時二十分引揚ゲ清洗シタル後之ヲ二分シ一ヲ醋酸煮熟用他ヲ曹達煮熟用ニ供セリ

製造用釜ハ甲乙兩釜ニ各一石六斗五升ノ水ヲ充タシ沸騰セシメ甲釜ニ重碳酸曹達五十匁ヲ乙釜ニ氷醋酸三分ノ二ポントヲ添加シ三日午前十時五分原藻ヲ投ジ小蓋ヲ置キ石ヲ載セテ藻ヲ液中ニ在ラシメ焚火ヲ繼續シタルニ原料投入ノタメ中止セル沸騰ハ醋酸釜ニ於テ午前十時四十五分曹達釜ニ於テ同十時五十五分再起シ此時試ミニ原料ヲ指間ニ摘ミテ軟度ヲ檢シタルニ醋酸釜ハ枝幹葉空胞共ニ容易ニ潰レ全ク軟化セルモ曹達釜ハ依然トシテ頭初ノ硬度ヲ保テリ依テ曹達釜ハ其儘加熱ヲ繼續シ午後五時二十五分ニ至リ漸ク軟化セリ

醋酸釜軟化ノ際ハ恰カモ從事ノ人夫ヲ缺キタルヲ以テ火ヲ引キ其儘釜中ニ放置シタルガ十一時五十五分試摘シタルトキハ原藻過度ニ軟化シ外皮剝離スルノ程度トナレリ斯クテ醋酸釜ハ正午ニ至リ引揚ゲ午後三時半ニ切刻ヲ終リ莖二十八枚ニ散布シテ日乾セリ新ハ醋酸釜ハ冷水沸騰ニ大割一締ヲ原藻投入後再度ノ沸騰迄ニ小割四分ノ三締ヲ要セリ曹達釜ハ三日夕刻釜揚シ四日朝ヨリ切刻乾燥ニ附シタリ

早煮比較試験表

事項	醋	酸	法	曹	達	法
試驗月日	六月二日	脫鹽、三日煮熟、同日乾	同日乾	六月二日	脫鹽、三日煮熟、四日日乾	同日乾
天候	同	二日半晴、三日半晴、四日曇	同	同	同上	同上
原藻	二百八十三斤一二五(浸水品)			二百八十六斤六二五(浸水品)		
鹽拔始	六月二日午後七時浸漬			同上		
鹽拔終	同	三日午前九時二十分引揚		同上		
鹽拔時間	十四時二十分			同上		
釜水	清水一石六斗五升、冰醋酸三分ノ二磅			清水同上、重碳酸曹達五十匁		
原藻釜入	六月三日午前十時五十分			同上		
沸騰再起	同	日午前十時四十五分		同日午前十時五十五分		
原藻軟化	同	日午前十時四十五分		同日午後五時二十五分		
軟化時間	四十分間			七時二十分間		
軟化狀態	三日午前十一時五十五分檢セシニ過軟ニシテ餅狀ヲ呈ス					
釜揚	同日正午			三日午後五時三十分		
薪	一締餘			二締半		
切刻	三日午後二時			六月四日朝		
撒布日乾始	同	午後三時半		同日朝		
莖數	二十八枚			十九枚		
製品	十三斤九合			十五斤五合		
屑	六斤一合			五斤二合		

荷造運賃試賣

以上各種ノ試験ニヨリ生シタル製品總量六百九十一斤(百十貫五百六十匁)ハ一俵約百斤入トシテ荷造シ七俵ヲ得試験地ヨリ汽船積トシ長崎經由東京へ積出シ當時運輸機關不便ニシテ二十九日ヲ經タル七月五日東京着運賃諸掛十五圓六錢ニシテ一俵平均二圓十五錢ニ當レリ

荷物ハ全部東京市日本橋區本材木町井上商店ニ送致シ同店ノ仕切ハ左表ノ如ク入目二分口錢五分ヲ控除シ價格ハ壹圓ニ付一貫八百匁乃至一貫六百匁ニシテ總計五十九圓餘ニ上レリ

試 賣 表

送荷番號	重 量	入 目 控 除	價 格 (壹 圓 換)	同 (一 貫 匁 換)	代 金
第 一 號	一六、九六〇 ^匁	一六、六二〇 ^匁	一、八〇〇 ^匁	五、二七八 ^匁	八、七七七
第 二 號	一六、一六〇	一五、八三六	同	同	八、三六〇
第 三 號	一六、三二〇	一五、九九三	同	同	八、四四四
第 四 號	一六、三二〇	一五、九九三	同	同	八、四四四
第 五 號	一六、〇〇〇	一五、六八〇	一、七〇〇	五、五八九	八、七六三
第 六 號	一六、〇〇〇	一五、六八〇	一、六〇〇	五、九三八	九、三一〇
第 七 號	一一、八〇〇	一二、五四四	一、七〇〇	五、五八九	七、〇一四
計	一一〇、五六〇	一〇八、三四〇			五九、一一〇

上來記載シタルトコロハ本試験ノ梗概ニシテ其經過ト共ニ漸次目的ニ近クヲ得最後ニ於ケル醋酸加用ハ顯著ナル效果ヲ示セリ製品試賣ハ之ヲ原料費ニ比シ約三倍ノ收獲ヲ見タリ尤モ總經費ト對照セバ必ズシモ利益ナラザルモ之レ當初數回房州式製法ヲ採用セシタメニシテ既ニ記セル如ク早煮法ノミニ據レバ其利益アルヲ疑ハズ將來有望ノ事業タルベシ尙ホ次年度ニ繼續シ早煮法ノ效果確認ト共ニ經濟上ノ關係ニ就キ攻究スルトコロアルベシ

養殖部

海人草蕃殖豫備試驗

海人草ハ本邦ニ於テハ土佐紀伊ヨリ琉球地方ニ亘リ主トシテ黒潮流域ニ蕃殖スルモノナリ本縣下ノ主産地ハ薩摩郡甑島ノ里、中甑、川邊郡西加世田村ノ小浦、野間池附近、肝屬郡小根占村、佐多村、熊毛郡南種子村、下屋久村沿岸及大島各島沿岸ニシテ大正五年ノ産額ハ統計ニ由レバ八千七百七十六貫價三千二百七十三圓ニシテ大半ハ薩摩郡ニシテ約六千六百貫價二千圓ヲ占ムレドモ縣全体ニ於ケル産額實數バ尙多大ナルベシ本草ノ用途ハ蛔蟲驅除劑トシテ知ラル、トコロニシテ大阪地方ニ輸出ス近時需用増加ト共ニ價格モ漸ク騰貴シツ、アリ甑島里村ニ於ケル累年ノ價格ハ左ノ如シ

明治四十三年以前	百六十匁一斤	五 六 錢	同	四十四年	八 錢
大正元年		十二 錢	同	二年	十二 錢
同	三年	十二 錢	同	四年	十二 錢
同	五年	十六 錢	同	六年	十九錢二厘

試驗ノ趣旨 海人草ハ投石(養生ヲ目的トスル)ニヨリ蕃殖セシメ得ルヤ、在來ノ石ヲ掃除スルコトニヨリ蕃殖ヲ計リ得ルヤ

適當ナル移植方法如何ノ三點ニ在リテ本年ハ専ラ前二者ニ就キ試驗セリ

試驗ノ經過 試驗ノ海面ハ薩摩郡甑島ノ中甑灣内東岸一郎浦ト稱スルコロニシテ夏季ノ颱風時冬季北西風ノ激

シキトキニ於テモ波浪ノ影響比較的少ク同灣内ニ於テハ海人草ノ蕃殖著ルシキ場所ナリ底質ハ岩盤砂地丸石等點在シ水深于潮時三尋内外アリ

投石ハ大正六年十月十八日午後一時ヨリ三時迄ノ間(此時水溫二〇度比重一〇二二〇氣溫二十二度)ニ前砂地ノ部分ニ一個三四貫匁大ノ安山岩質

ノ丸石四十個ヲ投入レ之ヲ徑二間位ノ圓形ニ排列シ處々ニ海人草ノ附着セル小石二十個ヲ混交セリ又丸石ノ存スル場所ニハ一個四貫匁大ノ丸石三十二個ヲ投入徑二間位ノ圓形ニ配置シ其石ノ内五個ハ棕櫚綱ニ海人草ヲ夾メルモノヲ卷キ付ケ投石ノ間ニ配置シ之等投石ハ何レモ「コールター」ニテ圓ヲ描キ標識トシ砂地ト丸石場ノ兩投入所間二十間アツテ附近ノ海藻類(主トシテホシダクラ類)ハ荊除セリ

試験成績

越ヘテ大正七年七月下旬調査セルニ投石ハ毫モ風浪ノタメ位置ヲ變セズ棕櫚綱モ原形ノ儘存シ只石ノ

表面ニ少量ノ浮泥及 *Sphaecularia* ノ繁殖セルヲ認メ海人草ハ一モ着生セルモノナシ棕櫚綱ニ挾メル海人草ハ新ニ根盤ヲ生ジテ繩ニ密着シ体長ハ一寸ナリシモ一寸六分ニ成長セリ之ニ由リ本草ハ少クモ二年以上生育スルモノナルコト切斷部ヨリ根盤ヲ構成シ得ルコト及ビ成長度ハ一ケ年少クモ五分乃至七分ニ達シ得ルヲ知り得タリ其他ノ點ニ就テハ尙研究ヲ重ネントス

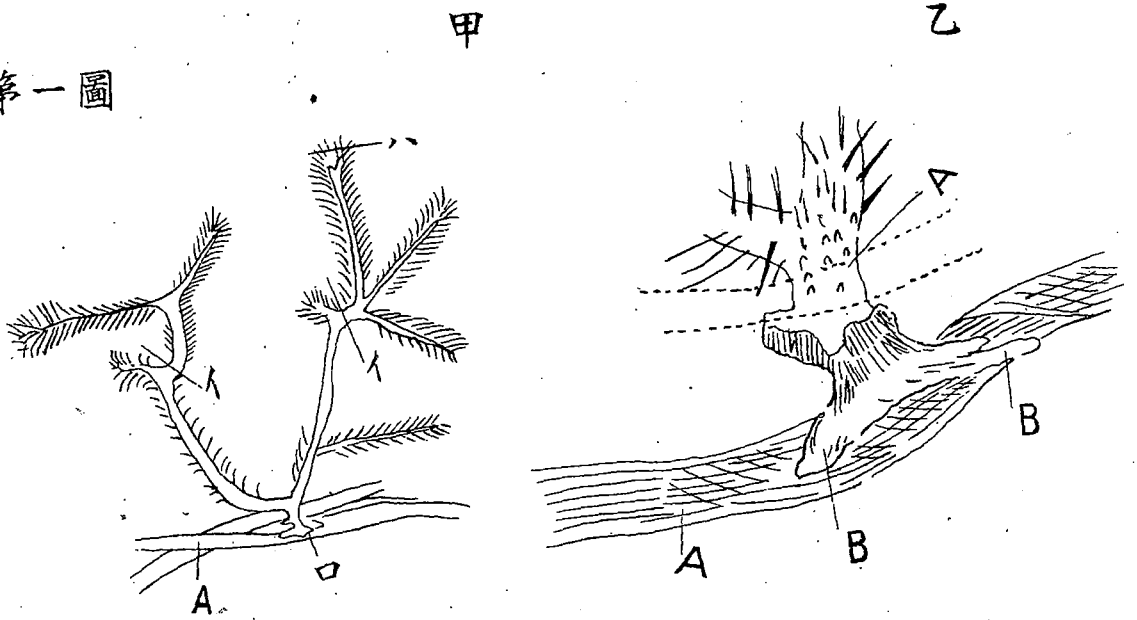
圖解 甲ハ乾燥セル標本實物大

乙ハ同根部十倍大

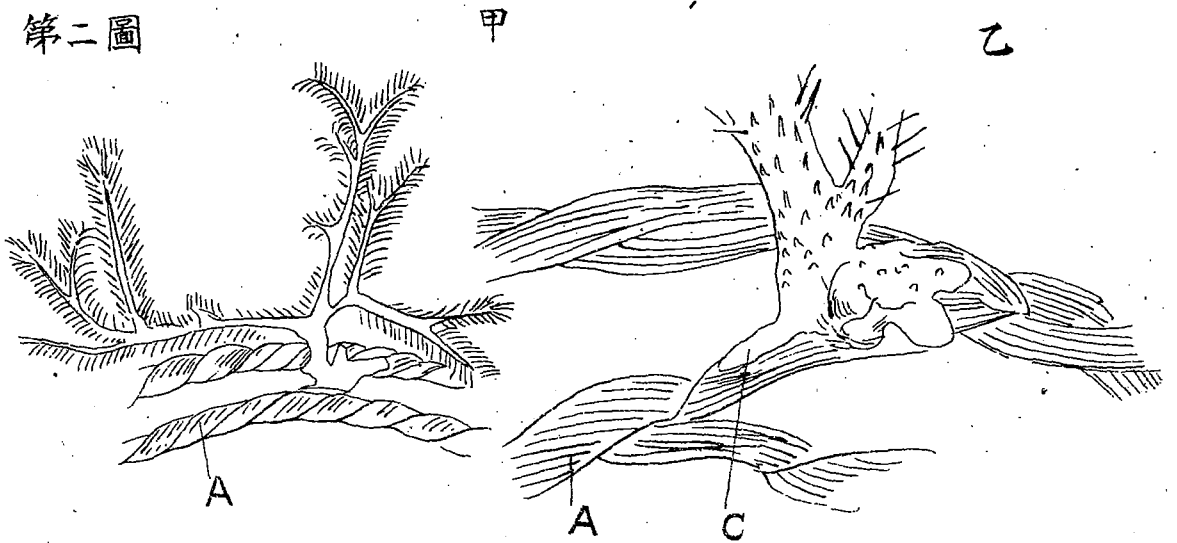
第一圖 a ハ繩ニ挾マレタル部分、b ハ繩ニ密着セル根盤、A ハ徑二分ノ棕櫚綱(イロ間昨年測リタル部)(一寸) C 並列セル繩ニ伸出セル根盤

海人草蕃殖試驗附圖

第一圖



第二圖



調 査 部

漁業基本調査

前年來ノ繼續調査ニシテ鯉並ニ鰻漁業ノ豊凶ヲ豫察研究スルノ資料トシテ縣下七島海ナル口之島黒島間ニ於テ本年ハ四、五、六、八、九、十一月ノ六回約十海里毎ニ表面、二十五尋、五十尋、七十五尋、百尋ノ各深度ニ於テ水溫比重ヲ測定シ其觀測ノ結果ハ其都度水産講習所其他關係府縣ニ通報スルト共ニ本場ハ之ヲ考察整理シ以テ研究上ノ資料トシ尙同上ノ外漁業試験ノ傍縣下各海面ニ於テ隨時隨所ニ表面觀測又浮游生物ノ採收査定セルモノアリ其結果ハ各關係府縣ノ分ト併セテ水産講習所ヨリ發表スル處アリト雖モ本場ニ於テモ之ヲ輯録査定シタルモノアリ左ニ摘録シ當業者ノ參考ニ供セントス

黒島口之島間横斷觀測ト鯉漁

第一回

大正六年四月二十日

竹、島 丸

觀測時	位置	氣 象		水 温				比 重				潮向速	透明度	
		天候	風向力	表面	二十尋	五十尋	七十尋	表面	二十尋	五十尋	七十尋			百尋
四月二十日 前七時三十五分	A	曇	北々東一	一九.三	二二.三	二二.三	一九.四	一九.〇	一九.〇	一九.〇	一九.〇	一九.〇	北東急	二五.二
同	B	曇	北々東二	一九.一	二二.三	二二.三	一九.〇	一九.〇	一九.〇	一九.〇	一九.〇	一九.〇	北東緩	二五.二
同	C	曇	北東二	一九.八	二〇.三	二〇.三	一九.三	一九.三	一九.三	一九.三	一九.三	一九.三	東緩	二五.二
同	D	雨	北東二	二〇.〇	二二.八	二二.八	一九.三	一九.三	一九.三	一九.三	一九.三	一九.三	東急	二五.三
同	E	雨	北東二	一九.〇	二二.六	二二.六	一九.〇	一九.〇	一九.〇	一九.〇	一九.〇	一九.〇	東北東急	二五.二

記事 前日ハ晴天北西微風ニシテ海上頗ル平穩ナリキ本日ハ黒島口之島間ハ潮流ハ北、北東又ハ東ヲ例トスルモ本

漁業基本調査

年ハ屢之ニ反對ノ流レアルハ異レリ此日ハ順調ナリシモ溷濁シ且急速ニシテ魚群及海鳥群ヲ認メズ海上寂寥タリ正午頃迄ハ海上平穩ナリシモ午後風向北東ニ變ジ降雨トナリ波浪亦高カリキ鯉漁船ハ總ベテ吐喝喇島附近ニ航走シ内四五隻ハ吐喝喇新會根ニ於テ大鯉千尾乃至千五六百尾ノ漁獲アリタリ

水溫ハ大正五年十二月觀測ニハ最高水溫二十度線ハD E間ノ二十五等線ニ現ハレタルモ今回ハ稍ヤ上昇シ最高ハCヲ除ク一帯ノ上層ニ二十二度線ヲ見最低ハ十二月ニ於テA B C下百等線ニ二十四度線アルモ今回ノ最低溫ハ十四度五ニシテB點下百等線ニ現ハレタリコノ冷水帶ト表面C點ニ現ハレタル低溫水トハ注意スベキ現象ナリ

比重ハ昨年十二月ニハC點五十等線附近ニ一、〇二五七五ナル低比重帶ヲ見タルモ今回ハ上層一帯ニ一、〇二六一ナル比重ヲ見尙黑島ニ近キA點ニ最低比重一、〇二六ヲ現出セリ最高ハD點ニ於テ二十五等線下百等線間ニテ一、〇二六三〇ヲ示セリ

透明度ハ殆ンド平均シ十三等餘ニシテ南方E點ノミ其以下ニ下リ稍ヤ清澄ヲ缺ゲルハ注意スベキ點ニシテ此附近尙濁流ノ一部殘存スルニアラザルカ

本年初季以來ノ鯉漁況ハ大島ハ二月中旬ヨリ川邊郡方面ハ三月下旬ニ開始サレ同郡ハ當時枕崎ノ一漁船ヲ先頭トシテ吐喝喇群島ナル惡石島近海ニ出漁シ中鯉八百乃至千二百尾ヲ漁獲セルモノ數隻アリ初漁ノ景況良好ナリシタメ第二次航海ノ同廿四五日頃ニハ縣内漁船全部出揃ヒ月末迄ノ漁況ハ初漁ニ劣リシモ尙相當ノ漁獲ヲ擧ゲタリ漁場ハ全ジク吐喝喇群島近海ニシテ潮流清澄ナラザルタメ餌付不良ノ傾向アリ魚群多キニ比シテ釣獲少カリキ魚價ハ昨冬以來節值高騰ノタメ一斤十四錢乃至十六錢ノ高値ヲ唱へ月末迄ノ縣外來漁船ハ伊豫三隻土佐三隻日向五隻ヲ算シ爾後續々來漁シツ、アリ餌料ハ山川港近海ニ漁獲供給サレ「タレクテ」ノミニテ一隻持五十圓乃至六十五圓ナリ漁具ハ八田網約四千張揚線網二張ナルガ八田網ハ一般ニ薄漁ノ姿ナリ

四月ニ入りテハ海水清澄シ漁況良好トナリ一航海多キハ四千尾ノ漁獲アリテ中旬迄持續セシモ下旬ハ又々潮流惡シク漁況振ハズ月末ニ至リ口永良部西方漁場ニ於テ大鱈千二百尾ヲ漁獲セシモノアリシハ異數ノ好漁ト云フベク而シテ漁場ハ依然吐喝喇群島ヲ中心トシ縣下漁船ノ多クハ此方面ニ集中シ又縣外船ハ悉ク山川港ニ根據シ長崎愛媛高知宮崎ノ諸縣ヨリ來漁シ一時二十餘隻ヲ算セリ

餌料ハ「タレクチ」鱚ニシテ未ダ眞鱚ノ漁獲ナシ漁場ハ山川港附近ニシテ八田網二十餘張揚線網四張對岸肝屬郡沿海ニ十數張ノ從漁供給アリ一時ハ稍ヤ潤澤ヲ欲ギ一隻持百六十圓ヲ唱へ鱈漁業經營ノ困難ヲ啣チシモ近來漸ク好漁ニ向フニ從ヒ五六十圓ニ低落セリ

第二回 大正六年五月二十八日 竹島丸

觀測時	位置	氣象		水		濕		比		潮向速	透明度		
		天候	風向方	氣溫	表面	二十五尋	五十尋	七十五尋	表面			二十五尋	五十尋
五月廿八日 後五時四十五分	B'	晴	北西 二	三、二	三、五	二七六	一五九	二五、一	二六五	二六四	二六三	北西急	一〇〇
同 三時五十分	A'	晴	北西 二	三、一	三、七	一九八	一七八	二六、七	二五三	二五〇	二五九	北西急	一一三
同 二時八分	A	晴	北西 二	三、七	三、八	一九〇	一七六	二五、七	二五四	二五二	二六〇	北西稍急	一一三
同 〇時五十五分	B	晴	北 一	二、二	三、七	一八八	一八一	二六、四	二五四	二五二	二六〇	北西緩	一一三
同 十一時四十分	C	晴	北 一	三、五	三、八	一九三	一八四	二六、九	二五七	二五四	二六五	東稍急	一一三
同 九時四十五分	D	曇	北微東 二	三、六	二四四	三、五	一八二	二七、二	二五九	二五七	二六二	東急	一一〇
同 七時十五分	E	曇	西 一	三、五	二四、四	三、二	一九九	二九、一	二五八	二五五	二六九	東急	一六四

記事 前日ハ連日好天氣打續キタル後ニシテ濛氣深ク終日軟風アリテ涼味ヲ覺ヘ海況實ニ平穩ナリキ
從來ノ觀測ハ黑島口之島間ニ止マリ以北薩摩本土沿岸トノ連絡ヲ缺ゲルヲ以テ今後ハ觀測當日ノ天候及時間ノ許ス

限リA' B'ノ二點ヲ加ヘ航海途中ノ表面水溫ヲモ測ルコト、シ今回ヨリ實行セリ

水溫ハ去四月二十日觀測ニハC點ヲ除ク表面一帯二十二度以上ニ昇リシモ今回ハD E點二十四度四ヲ見二十二度線ハ二十五尋線迄ニ沈ミ最低溫ハ前回ノB點ナリシモ今回ハB'ノ下層ニ移リ十五度一ヲ示シ各同溫線ハ概シテ北方ニ低ク南方ニ高キヲ見ル

比重ハ前月ハ表面各點ハ一、〇二六以上ナリシモ今回ハB' C點ヲ除ク外二六下ニ下リA'點ノ如キ二五二三ノ低比重ヲ出セルハ大ニ異レリ二十五尋線以下ニ於テハA' A' E點Fニ二六未滿ヲ出セシモ其他ハ總テ二六以上ニシテ高比重ヲ現ハセリ

透明度ハ北方黑島方面ハ前月ニ比シ稍ヤ下リシモ南方D Eノ如キハ十五六尋ニ達シ前月殘留セル濁流ノ一部ナラシト推セラレシモノハ全ク消失セリ

之ヲ要スルニ沿岸水ノ瀾漫スルモノ尙多キモ前月ニ比スレバ南方沖合ヨリ來レル高溫海水ハ此區間ニ於テ漸ク幅員ト厚サヲ増シツ、アリ

五月中鯉漁況ハ初旬來兎角不漁ノ聲高カリシモ下旬ヨリ稍ヤ色メキ漸次好漁ニ向ヒ殊ニ觀測當日ハ近來稀ナル大漁ニシテ臥蛇島附近ヨリ芽潮ニ至ル漁場ニテ一尾平均五百匁大ノ鯉三百乃至二千餘尾ノ漁獲アリ口之島附近ハ海水溫度二十四度位ニシテ水色モ良ク鳥群モ見得タリシモ黑島ニ近クニ從ヒ水色惡ク溫度下降シ潮流方向モ全ク異リ鳥群ヲ認メザリキ

鯉漁況ハ鹿兒島灣、有明灣、北薩長島沿岸近時漁獲多ク漁具ハ八田網、地曳網(長島沿岸ノミニ行ハル)揚線網等ニシテ鹿島灣口漁場ノ水溫ハ二十度内外ニシテ本年ハ概シテ魚群多キガ如シ最近山川港附近ニテ漁獲セララル、モノハ体長四寸位ノ眞鯧ニシテ卵精ハ未ダ熟セズ

觀測時	位置	氣象		水象		溫度			潮向速	透明度			
		天候	風向力	氣溫	表面	二十五等	五十等	七十五等					
六月三十日 后三時二十分	B'	晴曇	南西 一	二九、五	二六、五	二〇、八	一八、七	一六、五	二七、一	二六、三	二六、八	東北東急	一三、三
同 二時十分	A'	晴	南西 一	二九、六	二六、五	二〇、〇	一八、〇	一七、四	二〇、七	二〇、七	二六、七	東北東急	一〇、五
同 〇時三十分	A	晴曇	南西 二	二九、五	二六、〇	二〇、〇	一八、〇	一八、〇	二二、五	二二、五	二七、〇	北東急	一〇、三
同 前十時三十分	B	晴	南西 二	二九、〇	二七、二	二四、三	二二、三	一九、三	二六、〇	二六、九	二七、三	北東急	一一、五
同 同九時二十分	C	晴	南西 二	二七、五	二七、五	二四、三	二二、五	二〇、三	二六、三	二六、三	二六、三	北東急	一一、二
同 同七時三十分	D	晴	南西 二	二七、七	二七、三	二五、〇	二三、六	二〇、三	二六、〇	二六、九	二七、〇	北東急	一一、一
同 同六時三十分	E	晴曇	南西 二	二七、三	二七、五	二四、八	二三、七	二〇、三	二六、〇	二六、三	二六、三	北東急	一一、四

記事 數日前ヨリ曇天ニシテ時々降雨來襲シ氣溫二十八度内外南西風ナリキ

觀測當日ハ南西和風ヨリ強風ニ轉ジ小波起リタルモ夕刻ニ至リ海上頗ル平穩トナル潮流ハ北東流急激ニシテ海水濁濁シ口之島附近ニハ魚群ヲ認メザリシモ海鳥ノ小群及魚群搜索中ノ鯉船二隻ヲ認メタリ漸次北方黑島附近ニ至ルニ從ヒ海鳥モ見ヘズ頗ル寂寥タリ

水溫ハ五月ノ觀測ハ南端Dニ最高二十四度四ヲ見ルニ過ギザリシモ今回ハ表面一帯ニ二十六度乃至二十七度五ニ達シA點ニ於テ最高二十八度ヲ示セリ各點ノ水溫ハ僅カニ一ヶ月ニシテ三度乃至五度ヲ上進シ從ツテ下層溫度モ之ニツレCDE點ハ七十五等線ニ於テ二十度乃至二十二度ヲ示シ最低ハB點下ニテ十六度五ヲ示セリ

比重ハ前月ヨリ上リ表面ハB'ヲ除ク外二六以上トナリDEハ二六三〇ヲ示シDA'ノ下層五十等線下ニ於テハ二七以上ヲ示セリ

		八月二日前七時							
		同八時四十五分		同十時四十五分		同一時三十分		同三時二十分	
		同五時二十分		同		同		同	
		F	D	C	B	A	A'	B'	
	曇				晴曇		晴		曇
		北々西三	北々西三	北々西三	北々西三	北々西二	北々西二	北々西二	
		三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、二	元、〇	
		六、二	六、三	六、三	六、三	六、〇	六、八	六、三	
		二七、四	二七、五	二七、八	二七、七	二七、〇	二七、九	二四、一	
		二五、三	二五、六	二五、八	二五、九	二五、三	二四、一	二二、七	
		三三、六	三三、二	三五、三	三四、一	三三、二	三三、五	三〇、三	
		二六、六	二六、三	二六、二	二六、四	二六、〇	二六、四	二五、七	
		二六、九	二七、四	二七、三	二六、六	二六、九	二六、四	二五、七	
		二六、六	二六、三	二六、三	二六、七	二六、六	二六、〇	二六、九	
		二七、六	二七、〇	二七、三	二七、三	二七、〇	二六、六	二六、三	
	東急	東急	東急	北東急	北東急	北東急	北急	北急	
		一五、〇	一六、三	一五、五	一六、四	一五、〇	一六、三	一四、三	

記事 連日晴天打續キ炎暑焼クガ如ク七月末日前後ハ氣壓七五〇耗ヲ上下シ東ヨリ北東ノ風強ク沖合高浪アリ觀測

當日ニ至リ風向北東ヨリ北、北々西ニ變ジ風力モ減ジ海上靜穩ニ復シタルノ觀アリシモ前日來ノ「ウネリ」尙ホ高ク

午前中ハ快晴ナリシモ午後ハ北西強風高浪トナリ漸次濛氣加ハリ數渾ヲ隔ツル島礁モ辨シ難ク多少觀測ニ困難ヲ感

ジタリキ

水溫ハ去六月末ノ觀測ハ表面二十六七度ナリシモノ今回ハ總テ二十八度以上ニ達シA'點ハ最高二十八度八ヲ示セリ

下層水溫モ上昇シB'點下七十五尋線ニ於テ最低二十度三ヲ示ス外總テ二十二度以上ニ達シB'點下ニテハ尙二十四度

一ヲ示セリ本觀測ニ於テC'點ノ水溫高キハ前二回ノ觀測ト反對ノ現象ニシテ即二十六度線ハA'B'點五十尋内外ナル

ニC'點ニ於テハ六十二尋下ニ及ベリ海水ハ著ルシク清澄シ透明度十四尋以上トナリ最高B'點ニ於テ十六尋四ニ達セ

リ

比重ハ表面B'A'B'ノ如キ北端測點ハ二六以下ナルモ其他ハ二六以上ニシテ就中E'點二六六ノ高比重ヲ見ルハ稀ナ

ル事實ナリ下層比重ハD'ノ二十五尋線B'D'E'ノ七十五尋線ニ二七以上ヲ見ルモ其他ハ未滿ニシテ前回ニ比シ概シテ

低下セルノ觀アリ

之ヲ要スルニ去六月末ノ觀測ニ於テ旺盛トナレル高温水ハ爾後漸次勢力ヲ増シ其幅員及厚サニ於テ増加シツ、アルヲ見ルベシ

七月中ノ鯉漁況ハ七島近海ヲ主漁場トシ大漁ヲ見ズト雖モ出漁スル毎ニ必ズ二三百乃至千二三百ノ漁獲アリ体形ハ大小ヲ混セリ漁獲ノ鯉ハ總ベテ沖合ニテ養熟シ所謂沖養節ニ製スルモノ多シ

同上期間鱸ノ漁況ハ山川近海ハ不漁ノタメ何レモ休漁シ片浦及鹿兒島灣奧ニテ漁獲多キヲ見長島ハ全ク不漁ナリキ出水郡阿久根沖合ハ鱸群頗ル豐富ナリシモ潮流惡シク充分ノ漁獲ヲ爲シ能ハザリキ漁具ハ片浦櫻島方面ハ八田綱長島ハ地曳網ナリ鱸ノ種類ハ櫻島方面ハ体長二三寸ノ「タレクチ」ナレドモ片浦阿久根長島ハ眞鱸ナリシ

八月中ノ鯉漁況ハ例年本月前後ハ薄漁ノタメ休漁ノ姿ナルヲ常トセシモ本年ハ節値暴騰ノタメ休漁スルモハナク春季以來ノ好況ヲ持續シ關係漁村ノ景況殷賑ヲ極メタリ漁場ハ前月以來稍西北方面ニ偏移セルタメ一部漁船ハ此方面ニ從漁セシモ大部分ハ依然吐喝喇、惡石、權會根等ニ出漁一航海平均七八百尾ノ漁獲ヲ普通トセリ魚体ハ本年初季以來常ニ七八百尾以內ノ小形モノ大部分ヲ占メ例年ニ見ルニ貫外内外ノ大形ヲ見ザルナリ川邊郡枕崎漁船三十二隻ノ漁況ハ初漁以來ノ最高漁獲ハ二萬四千八百圓ニ達シ最低船尙八千四百圓ヲ下ラズ一萬圓以上ノ漁獲ヲ爲セルモノ三十二隻中二十八隻ニ上レル如キハ未曾有ナリ餌料鱸ハ山川近海ハ既ニ終漁トナリシニ付櫻島近海ヨリ灣奧沿岸ニ漁獲セラル、モノト北薩長島近海漁獲ノモノトニヨリ供給シ價格ハ前月ト大差ナク一隻分平均四十圓内外ナリ

鯉漁況ハ山川港附近ハ日下八田綱ノ出漁スルモノ二三張アリ水溫二十七八度ニシテ眞鱸、潤目鱸ヲ主トシ体長四五寸ノモノ少量ヅ、漁獲セラレ鹿兒島灣奧ハ「タレクチ」ノ漁獲アリ

觀測時	位置	氣		水				比				潮向速	透明度	
		天候	風向力	氣溫	表面	二十五尋	五十尋	七十五尋	表面	二十五尋	五十尋			七十五尋
九月十七日 后四時二十分	B'	晴	北々西三	二九、〇	二七、四	二四、四	一九、七	一九、三	二六、二	二六、六	二六、五	二六、九	北々西緩	一六、四
同	A'	晴	北々西二	二六、五	二七、五	二四、五	一九、七	一五、六	二五、七	二六、〇	二六、三	二六、七	北々西緩	一六、三
同	A	晴	北々西二	二六、五	二六、六	二四、一	二〇、八	一七、七	二五、五	二六、〇	二六、三	二六、七	北々西急	一四、四
同	B	晴	北々西二	二六、五	二七、三	二三、五	二〇、三	一七、五	二五、七	二六、九	二六、六	二六、〇	北東急	一五、〇
同	C	晴	北二	二六、〇	二六、七	二三、三	二〇、三	一八、六	二六、八	二六、三	二六、六	二六、八	北東急	一五、〇
同	D	晴	北二	二七、〇	二六、六	二三、六	二〇、〇	一九、〇	二六、七	二六、〇	二六、三	二六、〇	北東急	一五、三
同	E	晴	北二	二五、七	二六、九	二三、七	二〇、〇	一七、〇	二六、三	二六、六	二六、六	二六、六	東急	一五、〇

記事 十四日快晴海洋觀測ニ着手スベク口永良部島ニ到着假泊セシモ十五日未明ニ至リ南西強風加フルニ雨ヲ催フシ風浪高ク同港ニ碇泊困難トナリシタメ屋久島一湊ニ避難十五六日ハ晴レタルモ依然南西風強ク漸次風位西ニ變シ時折降雨アリ午後ヨリ風和ギタレバ十七日零時一湊出帆午前七時測點Dニ達シ觀測ニ着手セリ

觀測當日ハ天氣晴朗ニシテ終日北微風海上小波アリ黒島ノ西南一湊餘ノ處ニ魚群ヲ追フ鳥群ノ多數ヲ認ム又所々浮木ニ附ケル鰐ヲ見午後二時頃遙ニ臥蛇島方面ヨリ歸帆ノ鯉船一艘ヲ認メタル外海上實ニ寂寥タルモノナリキ
 水溫ハ前月ノ觀測ハ表面一帶二十八度以上ナリシモ今回ハ下リテA'B'ニ二十七度以上ヲ見ルノミニシテ其他ハ二十七度下トナリ下層水溫モ之ニツレ七十五尋線ニ於テハE點二十一度ヲ見ルノミニテA點ニハ十五度六ノ最低溫ヲ見ルニ至レリ表面附近ニ於テ前月高溫ナリシC點ノ最モ低溫ナルハ注意スベキ現象ナリ
 比重ハ表面B'CDハ二六以上ナルモ其他ハ下位トナリ二十五尋線下ニ於テハ總テ二六以上トナリシモ二七以上ハ僅カニE點五十尋線ニ見ユルノミニナリ

海水透明度ハ殆ンド前月ト同様ノ状態ヲ維持セリ

之ヲ前月ニ比スレバ表面溫度ハ其差一、二〇ヲ下レルニ過ギザルモ下層溫度ハ多キハ七度以下ヲ急下シ比重ハ概シテ低位ニ在リ更ニ大正五年同季ニ比スレバ表面水溫ハ平均一度ヲ低下シ比重モ稍ヤ低位ニ在リ要スルニ觀測點ニ於ケル流向ハA D間ハ北東ニ急流シ前月ト大差ナク南方ニ來ル海水ハ依然タルモ漸ク其溫度ハ低下シ下層ニハ冷水流ノ著ルシク増加セルハ沿岸水ノ勢力増長ノ傾向ニ在ルモノト謂フベク殊ニ前年ニ比シ其傾向大ナルヲ見ルナリ

九月中ノ鰹漁況ハ漁場ハ依然吐喝喇、惡石、權會根附近ニシテ稀ニ黑島硫黃附近灘魚ノ漁獲モアリテ漁場區域極メテ廣キモ一航海千尾以上ノ好漁ヲ爲スモノ稀ニシテ普通七八百尾内外ナリ魚体ハ大小不同ニシテ灘魚ハ當春兒ノ如キ小形ノモノ多數ノ釣獲アリ是レ例年ト異ルトコロナリ魚價ハ斤十五六錢内外ナリ餌料ハ熊本縣牛深港縣下長島並ニ鹿兒島灣奥ニテ供給シ一隻持六十圓乃至百圓ナリ枕崎ニ於ケル出漁船三十二隻ノ成績ハ最高六千三十三尾價格五千五百三十三圓ニシテ初漁以來ノ最高漁獲船ハ六萬五百九尾價格三萬三百十二圓ニシテ其他二萬圓以上ノ漁船七隻ヲ見ルニ至レリ

十月中鰹漁況ハ偶上旬ヨリ中旬ニカケテ暴風雨襲來セシタメ出漁中ノ鰹漁船ニシテ難破ノ厄ヲ蒙リシモノ五隻ニ及ビ乗組漁夫四十餘名ヲ失ヒシナド非常ナル騷擾ヲ極メ之等難破船搜索ニ他ノ鰹漁船ヲ使用シタル爲一時ハ從漁杜絶ノ有様ナリシガ天候快復ト共ニ出漁ヲ續行シ相當ノ漁獲ヲ見タリ

漁場ハ季節ノ關係上漸次西方ニ移轉スル傾アリシガ其主要場所ハ吐喝喇附近ニシテ東西新會根「ドシコ」會根等之ニ次ギ遠ク「メクラ」會根ニ出漁スルモノアリ漁獲ハ時ニ一航海一千尾以上ノ好漁ヲ爲スモノアリシモ一般ニ二三百万乃至五六百尾ナリ魚体ハ大小不同ニシテ大ハ一貫乃至一貫四百匁小ハ當春漁獲アリシ小型ノモノアリ

枕崎船三十隻ノ成績ハ最高漁獲五千六百四十尾五千五百二十圓ニシテ初漁以來ノ最高漁獲船三萬二千三百三圓ニシテ

二萬圓以上ノ漁船十隻ニ達セリ

餌料ハ縣内ニ漁獲乏シク天草地方ヨリ購入シ價格ハ前月末ト大差ナシ

第六回 大正六年十一月二十日 竹島丸

觀測時	位置	氣象		水					比		重		潮向速	透明度	
		天候	風向力	氣溫	表面	二十尋	五十尋	七十尋	表面	二十尋	五十尋	七十尋			百尋
十一月二十日 午後二時	B'	曇	北西三	一五、七	三、七	三、〇	一九、六	一七、四	二五、七	二五、八	二五、九	二六、八	二六、三	東 緩	六四
同前	A'	曇	北西三	一五、〇	三、四	三、三	二〇、三	一六、八	二五、九	二五、九	二五、九	二六、六	二六、六	東 緩	八一
同前	A	晴	北東三	一五、二	三、九	三、一	一八、三	一六、〇	二五、九	二五、九	二五、九	二六、九	二六、九	北東 緩	八一
同前	B	晴	北東三	一五、五	三、五	三、二	二〇、九	一七、六	二五、九	二五、九	二五、九	二六、九	二六、九	北東 急	九三
同前	C	晴	北東二	一七、八	三、四	三、七	三、一	一八、八	二五、〇	二六、三	二六、三	二七、〇	二七、〇	東北東 急	一〇〇
同前	D	晴	北東二	一七、五	三、五	三、五	三、六	一九、〇	二七、七	二七、〇	二七、〇	二八、〇	二八、〇	東北東 急	一一三
同前	E	晴	北東二	一七、八	三、七	三、五	三、五	二〇、三	二七、三	二七、三	二七、三	二八、三	二八、三	北東 急	一二一

記事 前日ハ北西強風ニシテ風波高ク鯉漁船モ出漁ヲ中止セリ觀測當日ハ晴北西微風ニシテ氣溫十五度七ヲ示セリ
 水溫ハ九月ノ觀測ニテ表面二十六度七度ナリシモ今回ハ二十一度五ヨリE點ノ最高二十三度七ニシテ三度乃至五度ノ
 降下ヲ見下層ハ七十五尋線ニ於テハ前回ト大差ナキノミナラズ前回ノ最低十五度六ニ比シ今回ハ十六度ヲ示シ稍ヤ
 高シA'點ノ割合ニ低溫ナルノ外北方ニ低ク南方ニ高シ
 比重ハ表面A以北ハ二六下B以南ハ二六以上ニシテE點最高二六四六ヲ示シ概シテ高比重ヲ示セリ下層ハB下五十
 尋線A下二十五尋線ニ於テ二六下ヲ示セルモ其他ハ二六以上ヲ示セリ唯各點下百尋線ニ至ルモ二七ヲ見ルナキハ稍
 ヤ異レリ

海水透明度ハ大ニ下リ最高十二尋ニシテ最低ハB'點六尋四ヲ見タリ

之ヲ大正五年同季ニ比スルニ表面水溫ハ前年平均二十四度六ナリシモノ今回ハ二十二度ニシ二度餘ヲ低下シ下層七十五尋線ニテ平均三度ヲ下レリ比重ハ表面ニ於テ若干低下シ下層モ亦同様ノ傾向アルハ之ヲ九月中ノ觀測ヨリ推シ尙本月ノ觀測ニ由リ沿岸冷水流ノ勢力ハ前年同季ニ比シ著ルシク大ナルヲ見ルベシ

秋季以來ノ鯉漁況ハ弗々好漁ニ向ヒ殊ニ本月七八日頃ヨリハ一隻七八百乃至千尾以上ノ釣獲アリ例年ニナキ豐況ナリ漁場ハ遠ク吐喝喇方面ハ不漁ニシテ近來芽瀬及東新會根附近トス一般ニ漁場ハ西偏シ魚体一貫五百匁内外ニシテ價格ハ一斤二十錢内外ナリ餌料ハ眞鯧ニシテ長島及牛深方面ヨリ供給シ一隻持七八十圓乃至百二十圓ナリ

鯧漁況ハ例年本季ハ不振トナリ休漁スルヲ例トセルモ本年ハ各沿海共近年稀ナル豐漁ナリ漁具ハ八田網、棒受網ニシテ魚体ハ大形五六寸ノ眞鯧「ウルメ」鯧多ク八田網ニテ一暗間千圓餘ノ漁獲ヲ爲セルモノ數隻ニ達セリ

以上各月ノ觀測ヲ通覽スルトキハ

水溫。ハ表面ハ四月二十二度内外ナリシモ漸ク上進シ五月ヨリ六月ノ間ニ急進シテ二十七度以上トナリ爾後九月迄此高溫ヲ維持シ後十一月ニ至リテ二十二度ニ下レリ下層水溫モ之ニ準シ六月ヨリ八月迄ハ七十五尋線ニ二十二度ヲ見タルモ其前後ハ十六乃至十八度ニシテ表面ト七十五尋層トノ差ハ五六度ナリ

比重。ハ表面ハ四月二六ナリシモ五月ハ二五ニ下リ六月以降二六以上トナリ八月ニ最高二六六ヲ見爾後稍ヤ下レルモ十一月ニ至ル間尙ホ二六以上ヲ維持セリ下層ニ在リテハ其深サヲ加フルニ從ヒ高比重トナルモ其位置ハ區々ニシテ五六、八、十一月ハ殊ニ亂レ往々渦流ヲ爲セリ

潮流。ハ五月ニ於テ北西流ヲ見タル外常ニ北ヨリ東ノ間ニ流レ海水透明度ハ六月十一月ニハ著ルシク減セルモ其他ハ概シテ大ニシテ就中八月ニ於テハ最モ清澄ヲ極メタリ

以上ノ變化ハ主トシテ暖流ノ消長ト之ニ伴フ沿岸水帯ノ伸縮ニ由ルモノニシテ本觀測ノ各點ニ於テハ時期ニ由リ其何レヲモ見ルヲ得ベシ即チ橫斷圖ニヨリ各月ノ海水狀態ヲ見鯉漁業ノ關係ヲ考察スルトキハ左ノ如シ

四月 表面二十二度ノ水溫ナルモ下層十七度線ヲ見尙北方ニ偏シ十五度ノ冷水帯ノ潜在ヲ示シ比重ハ二六三ノ高比重帶下層ヨリ隆起シ北方ヨリ低比重水突入シ其層ノ混亂セルハ未ダ南方ヨリ來ル暖流ノ勢力ヲ示スモノニアラズ從ツテ南方沖合吐噶喇群島ニハ前月中旬ヨリ鯉ノ好漁アリト雖モ未ダ觀測點ニ近ク漁獲ヲ見ルニ至ラズ唯三月中清澄ヲ缺ギシ海水ガ四月ニ入り回復シツ、アリシ事實ハ本觀測ニ於テC點ノ低水溫ハ實ニ其殘影ニアラザルカヲ疑ハシムルモノナリ

五月 表面二十三度以上トナリ南方D E點ニハ二十四度線ヲ見同溫線ハ北方ニ低ク南方ニ高シ各溫度線ノ排列ハ相併行シ暖流ノ漸ク押寄せ來リツ、アルヲ見ルト雖モ比重線ハB C點下ニ混亂セル者アリテ未ダ暖流ノ勢力下層ニ及バザル者ノ如シサレド鯉漁場ハ漸ク北ニ伸ビ臥蛇島ヨリ芽瀬近海ニ大漁トナレルハ其影響ニ由ル者ト見ルヲ得ベシ

六月 表面一帶ニ二十七度以上トナリ各溫度線ノ規律正シク平行狀態ニ於テ下層ニ及ビ比重線モA D下ニ多少ノ混亂ヲ認ムル外概シテ順調ナルハ附近一帶暖流ノ勢力ニ支配セラル、ノ多キヲ見ルモノニシテ爲ニ鯉漁場ハ尙北ニ伸ビ口永良部島近海ヨリ開闢嶽下ニ至リ所謂灘魚ノ盛漁ヲ見ルニ至レリ

八月 表面一体二十八度以上ニ進ミ各溫度線ハ同溫層ノ深サヲ増シタルヲ示シ比重ハ稍ヤ混亂セルモ南方ヨリ比較的高比重線ハ順序克ク押寄せ來リ暖流ノ勢ハ前月ヨリモ更ニ盛ナルヲ想像セシム之ガタノ鯉漁場ハ野間岬西北沖合ニ伸ビ本觀測點ノ南方漁場ハ例年ト同ジク魚群大ナラズ薄漁季トナレリ蓋シ水溫ノ高キニ過グルニ由ルナランカ

九月 表面水溫ハ稍ヤ下リテ二十六七度トナリ各溫度線及同比重線ノ排列ハ相平行シ略ボ七月ノ狀態ニ近似セリ鯉漁ハ甚シク好況ニハアラザリシモ其南方沖合及北方灘魚ノ漁場ニハ可ナリノ魚群ヲ見漁況稍回復セリ

十月ハ觀測ヲ缺ギシタメ海況不明ナルモ暖流ノ勢力微弱トナリタルモノ、如ク漁場ハ南方沖合ニ限ラル、ニ至レリ
 十一月 表面二十一二度ノ水溫トナリ二十三度線ハ南方ニ退キ比重モ比較的低下セルモ南方ニ押出シ殆ンド四月ノ海況ニ近ク暖流ノ勢力減退セルヲ示セルモ二十三度線ノE點下ニ深キ厚サヲ有スルハ尙其沖合ニ近ク高溫水アルニ非ザルカラ疑ハシム當月ノ鯉漁場中E點ニ近キ芽瀬東新會根邊ニ好漁ヲ見タルハ其關係ニ由ルナランカ唯北方ニ於ケル低溫水ノ勢力著ルシク増加ノ傾向アルハ前年同期ニ比シ甚シキモノニシテ久シク不漁ナリシ大羽鯉漁ノ當季ニ入り復活シタル如キ低溫ナル沿岸水ノ擴張セル誘因ニヨルナランカト思ハル

尙終リニ川邊郡枕崎鯉漁船ノ日誌ヲ得タレバ次ニ掲グ九月下旬後他船漁場ノ漁況記載ナキヲ遺憾トスルモ概シテ以後ノ漁獲ハ多大ナルモノナカリシニ由ルモノニシテ以テ本年鯉漁場ノ一班ヲ察知スルヲ得ベシ之ニ由ツテ見レバ鯉ノ漁場ハ三四月ノ初季ハ遠ク大島ニ近キ横當島附近ニ到ルモ爾後ハ口之島以南ノ七島ニ併行セル西側ノ漁礁ヲ主トシ六月ヨリ其以北陸岸ノ近クニ移リ九月迄處ニ由リテハ十月迄此形勢ヲ維持シ十一月後口之島以南ノ漁場ニ復スルナリ（日誌附圖參照）

枕崎鯉船日誌 (大正六年)

回航 數海	期 間	漁 場	漁 獲 高	他船ノ出流セル漁場ノ漁況
一	自三月十五日 至三月十九日	惡石沖	五九三 <small>尾</small>	
二	全全二十九日 全全二十三日	中曾根	四一八	

漁業基本調査

一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三
全全 全全 十二日	全全 全全 六二日	全全 全六 月二 二十八 日	全全 全全 二十 七日	全全 全全 十九 三日	全全 全全 十二 九日	全全 全全 八日	自至 四月 三月 三十 日	全全 全全 二十 三日	全全 全全 十八 日	全全 全全 十七 日	全全 全全 十七 日	全全 全全 七三 日	全全 全全 三一 日	全全 全全 三十一 日
小山 曾根	寶中 曾根	小山 曾根	横久 當附 近島	?	惡石	ニゴ リ曾 根	寶中 曾根 ニゴ リ曾 根	惡石	白濱 曾根	小寶 中曾 寶根	五號 曾根	小山 曾根	寶中 曾根	?
七〇〇	二、〇 三六	七〇〇	三五八	?	七八〇	九二七	九三〇	二二〇	九七二	二、一 二五	二、〇 三六	一、〇 五〇	五二五	?
十一日 東新曾 根、小 山曾根 、中曾 根、東 新曾根 五號曾 根大漁	七日東 新曾根 、小山 曾根ニ 漁アリ	六日中 曾根、 小寶、 東新曾 根大漁 アリ	三日ヨ リ五日 小臥蛇 、權曾 根大漁	二十九 日芽瀬 タコ、 小臥蛇 、權曾 根、三 十日ヨ リ一日 迄小山 曾根、 芽瀬ド ンコ大 漁アリ	二十日 ヨリ二 十五日 迄小寶 、惡石 沖、二 十六日 ヨリ二 十八日 迄五號 曾根惡 石、小 寶、橫 當、永 長部大 漁アリ	十三日 ヨリ十 五日權 曾根十 六日喜 界島十 七日ド ンコ曾 根十九 日芽瀬 大漁アリ	十日ヨ リ十二 日中曾 根、五 號曾根 、小山 曾根惡 石大漁 アリ	四日小 山曾根 、中曾 根、ド ンコ曾 根、上 根島沖 、芽瀬 、タコ ニ漁ア リ六七 日小山 曾根、 五號曾 根、平 島ニ大 漁アリ	二十二 日ヨリ 二十四 日迄小 山曾根 、惡石 、二十 六日ニ ゴリ曾 根、權 曾根、 芽瀬タ コ大漁 アリ	十七日 ヨリ二 十日迄 五號曾 根、小 寶大漁 アリ	十二日 小山曾 根、中 曾根十 三日中 曾根十 五日ヨ リ十七 日迄小 寶附近 大漁アリ	十日小 山曾根 大漁アリ	二日中 曾根大 漁アリ	

一一八	全全全	全全全	十二日	竹島南會根	二、〇三六	十二日竹島附近大漁アリ
一九九	全全全	全全全	十九日	芽瀬	四三〇	十四日ヨリ十八日竹島、硫黄島大漁アリ 十九日悪石ニ漁アリ
二〇〇	全全全	全全全	二十日	諏訪瀬島	一、一九〇	二十一日悪石、中島ニ大漁アリ
二〇一	至全全	全全全	六月二十二日	悪石	七七〇	二十三日諏訪瀬島ニ漁アリ二十五日悪石、諏訪瀬、寶中會根野間岬、牛深沖二十日臥陀、東新會根、野間岬大漁アリ
二二二	全全全	全全全	七月二十八日	悪石	三三七	二十九日永良部島沖ニ漁アリ一日小山會根大漁アリ
二二三	全全全	全全全	四日	平島	一、四一八	三日ヨリ五日小山會根、中會根、平島權會根、五號會根惡石大漁アリ
二四四	全全全	全全全	五日	中ノ島	一、〇五七	八日中島九日芽瀬ニ大漁アリ
二五五	全全全	全全全	十日	平島	一、二六〇	十日悪石十一日平瀬ニ漁アリ十三日芽瀬、小臥蛇十五日權會根大漁アリ
二六六	全全全	全全全	十六日	諏訪瀬島東	一、七五五	十六日芽瀬權會根漁アリ十七日臥蛇十九日小寶、諏訪瀬、東芽瀬、小臥蛇大漁アリ
二七七	全全全	全全全	二十三日	小臥蛇	五二六	二十日ヨリ二十二日屋久西會根大漁
二七八	全全全	全全全	二十四日	芽瀬	五七一	二十四日五號會根、屋久島前二十五日寶中會根、二十六日五號會根大漁アリ
二八九	全全全	全全全	八月二十八日	中會根	一、〇一一	二十八日屋久島前、牛深前、二十九日ヨリ三十一日中會根三十一日悪石、上瀬、權會根、五號會根、中會根大漁
三〇〇	全全全	全全全	五日	權會根	一、二一〇	五日五號、中會根、權會根、東新會根ニ漁アリ
三一〇	全全全	全全全	五日	芽瀬	八五〇	六日悪石、小寶、小山會根、七日ドンゴ會根大漁アリ
三二〇	至全全	全全全	八月十三日	諏訪瀬東	八一〇	八日ヨリ十三日東新會根、草垣、權會根大漁アリ、十四日悪石ニ漁アリ

漁業基本調査

四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三
全全 全全 十六日	全全 全全 八三日	全全 全全 十一月二十八日	全全 全全 十二月二十三日	至自 全全 十月二十四日	全全 全全 十一月七日	全全 全全 十月三日	全全 全全 十二月二十日	全全 全全 十二月二十七日	全全 全全 十二月八日	全全 全全 十二月七日	全全 全全 九月二十九日	全全 全全 十二月二十四日	全全 全全 十二月二十四日	全全 全全 十二月十五日
東新 曾根	小山 曾根沖	五號 曾根	湯 瀨	平 瀨	ドンコ 曾根	芽瀨 タコ	中曾 根タコ	小山 曾根	小山 曾根	中 曾根	權 曾根	中 曾根	小 隊 蛇	諏訪 瀨 東
二六〇	三〇〇	二二二	三七六	一三〇	四六〇	四〇	二二四	八三〇	一、一一〇	六八〇	一、二〇〇	二七〇	七一六	九二二
							(以下記載ナシ)	十六日ヨリ十九日小山曾根、東新曾根ニ大漁アリ	八日ドンコ曾根、湯瀨、九日中曾根十二日小山曾根十四日小山曾根ニ漁アリ	三日屋久曾根六日小山曾根七日中曾根ニ大漁アリ	二十九日小寶、權曾根、三十日五號曾根三十一日悪石二日中曾根ニ漁アリ	二十四日芽瀨タコ權曾根、平島、五號、中曾根、小山曾根、東新曾根大漁二十七日諏訪瀨東二十八日五號中曾根ニ漁アリ	十八日小山曾根大漁二十三日口永良部ニ漁アリ	十五日權曾根、上ノ瀨、十六日中曾根、五號曾根十七日芽瀨タコ、權曾根大漁アリ

計	四五	五二	五一	五〇	四九	四八
全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全
	十二月二七日	十二月二七日	十二月二十五日	十二月二十五日	十二月二十八日	十二月二十八日
	芽瀬タコ	芽瀬タコ	メクラ曾根	メクラ曾根	芽瀬タコ	ドンコ曾根
	三七二	一〇四	一三五〇	三〇〇	三七四	七九八
	四〇、六二八					

鯧漁業ト海洋觀測

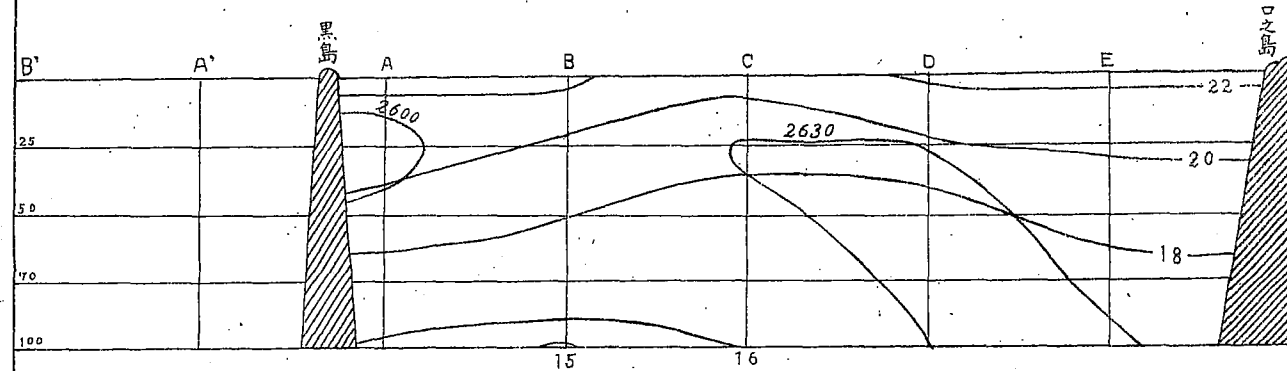
大正六年中各月ノ鯧漁況ハ鯧漁況ト共ニ略記セントコロナルガ黒島口之島間横斷觀測位置ハ殆ンド鯧ヲ見ザル沖合ニシテ既知漁場トハ數十哩ヲ距ツルユヘ其ノ直接關係ヲ示サマルモ該觀測ニ表ハレタル暖流ト沿岸水ノ消長ガ鯧群ノ消長ト一致セルハ謂フマデモナシ即チ鹿兒島灣口其他南薩方面ノ鯧ノ漁獲アルハ沿岸冷水帯ナルトキニシテ暖流ノ勢力加ハリ其一部鹿兒島灣口ヲ壓スルニ至レバ同方面ノ鯧群ハ其影ヲ失ヒ鹿兒島灣ニ於テハ櫻島以北ノ灣奥ニ於テ又西薩方面ニテハ出水郡方面ニ漁獲セラル、ニ至ルナリ

本年秋季甌島沿海ニ於テ小形眞鯧ノ著シク漁獲セラレ冬季ニ入り數年不漁ヲ唱ヘテレシ大羽鯧ノ漁獲多カリシハ前年ト異レル事實ニシテ蓋シ十月觀測ニ現ハレタル沿岸冷水帯ノ著ルシキ發生ハ自ラ之ニ關スルモノト見ルヲ得ベシ尙鯧餌料鯧漁業試驗ノ際常ニ其ノ鯧漁場ニ就キ觀測セルモノハ略ボ其ノ棲息海況ノ一斑ヲ知ルニ足ルユヘ其ノ梗概ヲ

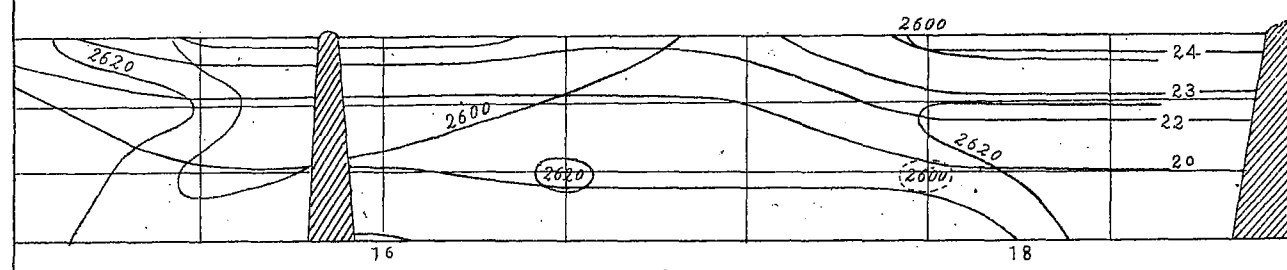
(年六正大)

圖測觀斷構間嶋之口嶋巢

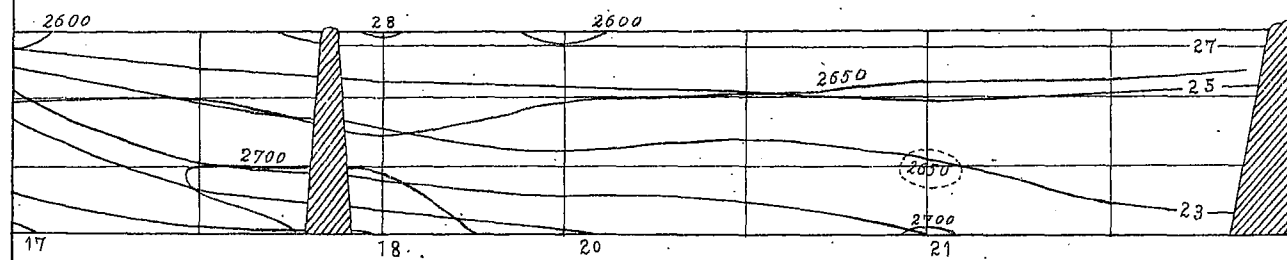
四月二十日



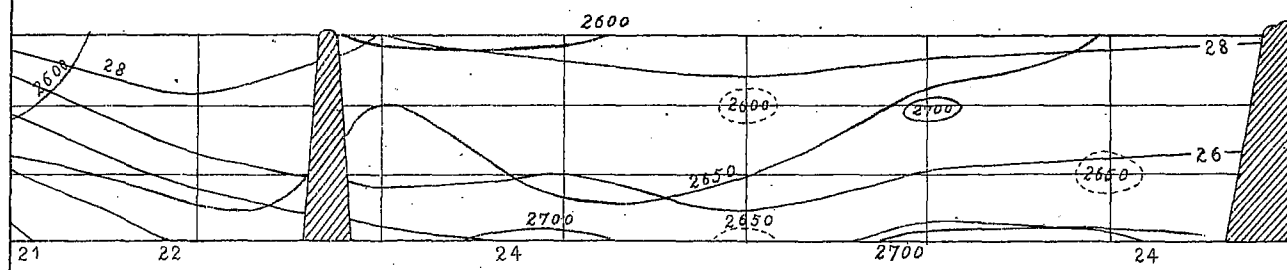
五月二十八日



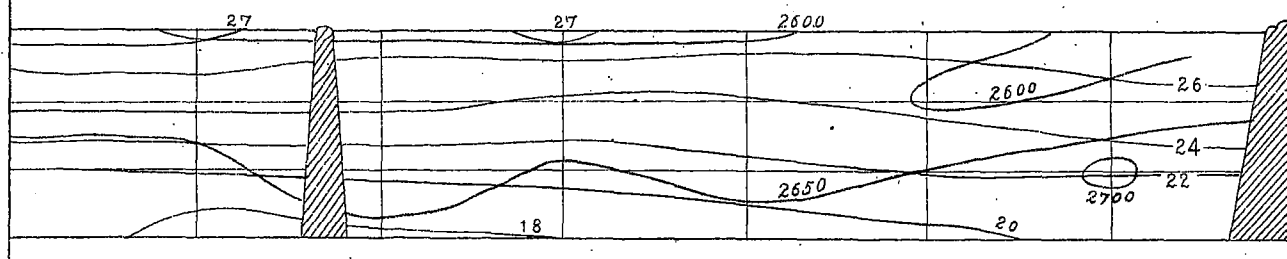
六月三十日



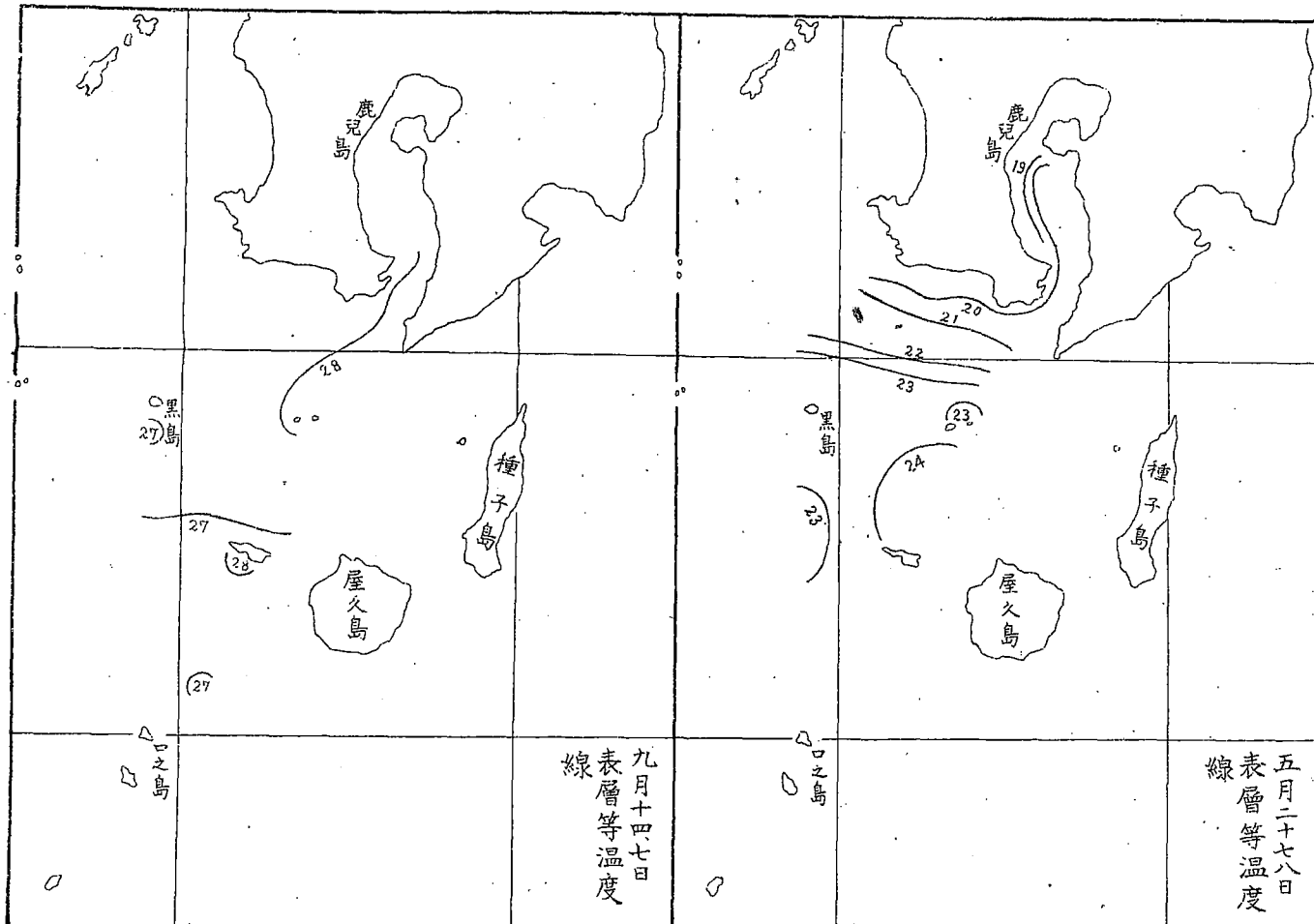
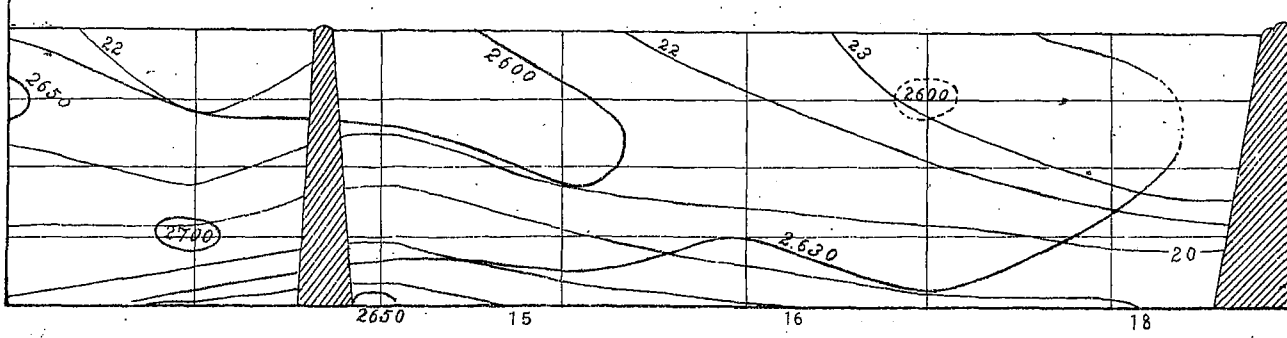
八月二日



九月十日

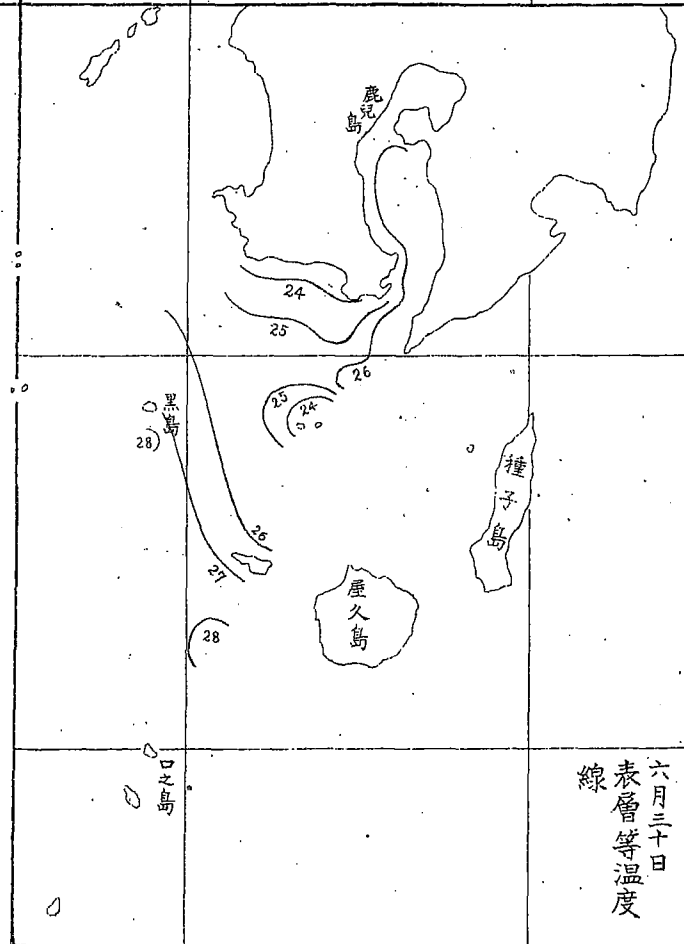


十一月二十日



九月十四日
表層等温度
線

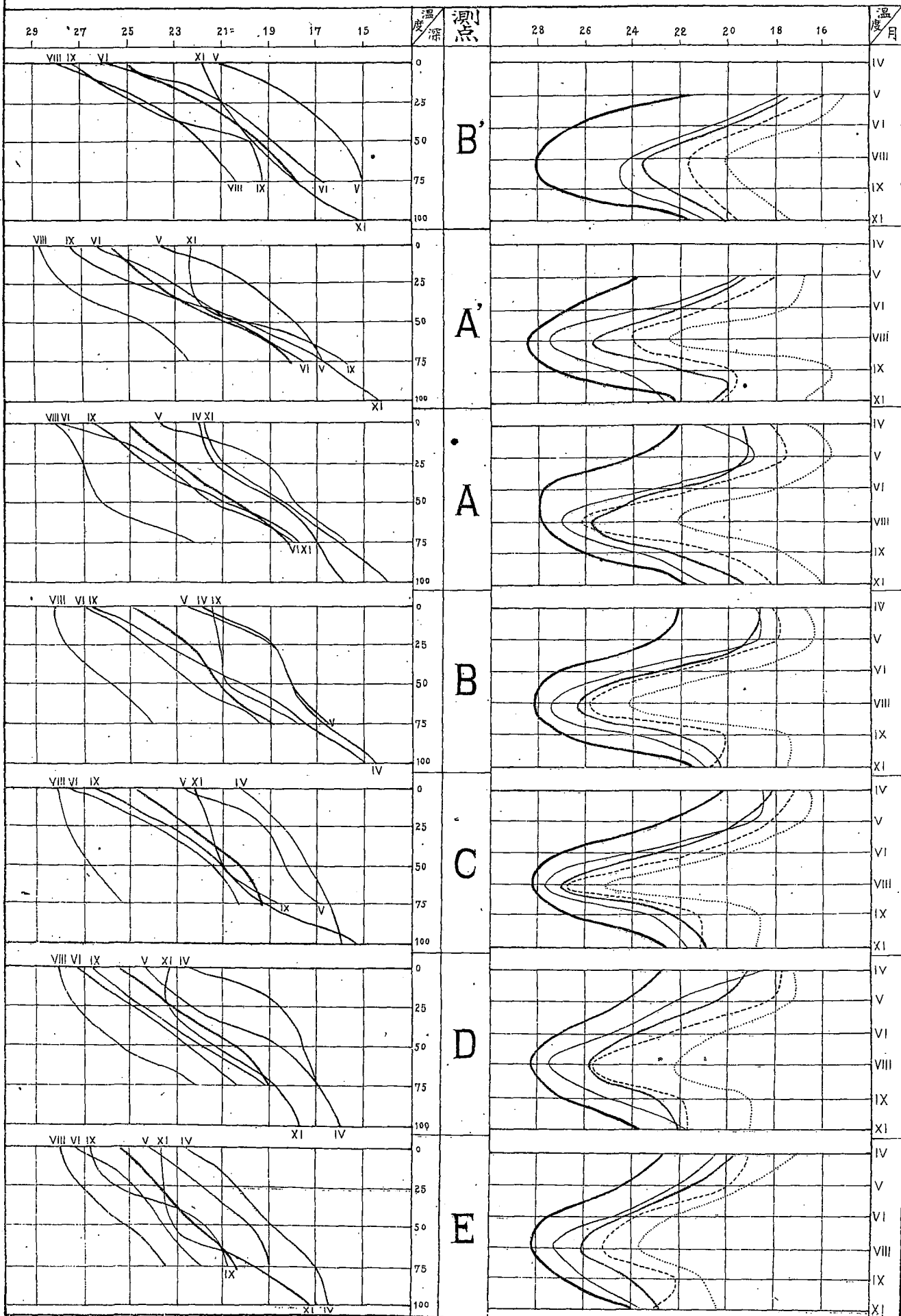
五月二十七日
表層等温度
線



六月三十日
表層等温度
線

各点水温垂直变化

各点水温平均变化



凡例

表面 / 二十五尋 / 五十尋 / 七十五尋

朱線、平均ヲ示ス

輕漁場圖

大正六年

(枕崎漁船日誌由ル)

漁場位置
 其下ニ記セル數字ハ
 漁獲アリタル月日
 ナラス
 例 六月六日
 6.6 7.11-15
 八日ヨリ十
 五日迄ナリ



131

野間岬

崎枕

鹿島

山川

佐多岬

31

31

宇治島 8.8-13

黒島

硫黄島 6.14-18

竹島 6.12-18

子ノ久屋 7.24-24-28 9.3

種子島

屋久島

5.26-28 6.29 8.23

口永良部島

子ノ新東

6.67 11.26
 8.58 9-13 24
 9.16-19
 11.14

子ノラツメ

11.

子ノコンド

5.4 17 30 31
 6.1
 8.7
 9.8
 10.9
 11.17

コノ瀬芽

4.26
 5.4 29
 8.17 24
 11.20 30

瀬芽

5.19 30 31
 6.1
 7.9 13 16

瀬上

7.31 8.1 15

口之島

中之島

子ノ權

4.26
 5.13-15 19
 6.3-5
 7.3-5 15 16 31
 8.15 8-15 17 24 27
 10.4

小蛇 6.26 7.17

小蛇 5.29 6.3-5 7.13 19

6.21 7.8

守島

5.6 7 7.3-5 11 8.24

諏訪瀬島

6.21-23 25 7.19 8.27

子ノ号五

4.9 17-20
 5.6 7 10-12 26-28
 6.11
 7.3-5 24 26 31
 8.15 16 24 28 30
 10.30

悪石島

3.17 4.22-24
 5.6 7 10-12 20-28
 6.19 21 25 30
 7.3-5 10 31
 8.1 6 14 31

子ノ中

3.21 4.28-24
 5.4 10-12
 6.6 11 25
 7.3-5 25 29-31
 8.1 5 16 24 28
 9.2 7 9

子ノ山小

4.5 10 12 22-24
 5.4 6 7 10-12 30 31
 6.1 7 11
 7.1 3-5
 8.6 8 24
 9.6 11 12 14 16-19
 11.5

小寶島

4.15-20
 5.20-28
 6.6
 7.19
 8.6 29

子ノ子ニ

5.6 7

横當島

5.26-28

大島

130

131

132

鹿兒島灣口漁場(山川港附近)

三月中(十六日ヨリ二十八日ヨリ) 北又ハ北東ノ風多ク氣溫ハ八度乃至十六度水溫十四度三乃至十五度二比重二五二五乃至二六二

度透明度五尋半乃至八尋水色二號ニシテ此季ハタレクチ(鯉)ノ來游アリシモ概シテ薄漁ナリシ

四月中(十五日ヨリ廿七日ヨリ) 北又ハ北西風多ク氣溫ハ十三度乃至十七度五水溫十七度五乃至十八度六比重二五度五乃至二五七

三透明度八尋乃至十三尋(處ニヨリ) 水色二號ニシテ此季ハ尙ホタレクチヲ主トシ漸ク好漁トナリシ

五月中(一日ヨリ十六日ヨリ) 北又ハ南西ノ風多ク氣溫十四度乃至二十度五水溫十七度乃至十八度比重二五六度乃至二六度一透明

度六尋半乃至十尋水色二號ニシテ此季ニ於テハタレクチハ著シク減ジマイワシノ來游多ク好漁ナリシ

六月中(五月末ヨリ本月四日迄) 南風多ク氣溫二十度六乃至二十一度水溫二十度四乃至二十一度三比重二六一四透明度八尋水色

二號ニシテ此季ニ於テマイワシ群ハ著シク減ジ鹿兒島灣奥片浦方面ニ漁獲ヲ見ルニ至レリ七月ニ入りテハ山川港附近全ク鯿ノ漁獲ナカリシ

出水郡漁場

七月中(十四日ヨリ三十日ヨリ) 東風多ク氣溫二十四度五乃至二十七度水溫二十四度五乃至二十七度比重二四五八乃至二五六度水

色二號透明度十尋乃至十二尋五ニシテ此季マイワシヲ主トシ潤目鯿鯨等ヲ交ヘ好漁アリシ

八月中(一日ヨリ廿七日迄) 北東風多ク氣溫二十四度五乃至二十七度五水溫二十六度二乃至二十七度五比重二四三度乃至二五

五七水色二號透明度九尋乃至十六尋ニシテマイワシノ外タレクチ潤目鯿等ヲ交ヘ漁獲多カリシ

本縣南部ニ現ハル、變調流及溷濁水帶

本調査ハ元技手飯塚哲夫氏が在職中調査シ大正六年七月水産研究誌ニ發表セシモノナルガ漁業上ノ好參考資料タルガユヘ茲ニ掲載ス

緒言 事物ノ變化現象ヲ究明セント欲セバ其ノ現實ヲ調査スルト共ニ須ク因テ以テ來ル源泉ニ溯リテ之レヲ調ブルノ要アルベク殊ニ海洋觀測ノ結果潮流水溫比重ノ狀態分布ニ關スル變遷ヲ尋テ水族ノ去來ヲ豫斷スルガ如キ基本的水理生物學ニ於テオヤ

東海各府縣沖合漁業ニ甚大ナル影響ヲ與フル黑潮(暖潮)ノ勢力消長ノ如キモ黑潮流過ノ衝ニ當リ然モ其ノ門戸ヲ扼シ且ツ夫レ近キ源泉地トモ稱スベキ九州南部沖合ニ於ケル該海流ノ方向速度ノ強弱ヲ測知セバ前記ノ努力ニ對シ常ニ偉大ナル憑據材料ヲ提示シ系統的研鑽ノ指針トナルハ勿論延ヒテ如何ニ氣象並ニ漁業上ニ貢獻スルヤハ論ヲ俟タズ進デ之ガ實行ノ急務タルヤ最ノ最タル者アルベシ故ニ源泉地ノ利ヲ占ムルノ府縣ハ區々タル支障ニ捕ハレズ極力之ガ調査觀測ヲ施シ以テ得タル重大ナル材料ヲ他府縣ニ致シ亦之レガ末流ヲ汲ム府縣ハ其ノ變化現象ヲ究メ南西ヨリ北東ニ連互セル邦國地理ノ形勝ヲ利シ戮協淬勵以テ吾ガ水界ノ主眼原動力タルベキ暖潮(黑潮)ノ研鑽ナクシテ止マザル者也乎ニ沖繩群嶋西北方ヲ東進セル暖潮(黑潮)主流ハ其一派ヲ對馬海峽ニ送リタル後九州南部ニ於テ流過區域ヲ佐多岬奄美大島間(此ノ距離約百八十浬)ニ有シ速度三、四十浬ヲ示シ之ヨリ本邦東南岸ニ沿ヒテ偏東流スルモノ、如シ然ルニ前記流過區域ニハ大隅吐鳴喇兩群島ナル無數ノ島嶼淺礁介在シ勢ヒ流過ニ際シ高速度ヲ以テ之ト直衝シ上下層ノ反轉ハ勿論其ノ方向ニ攪亂分散ヲ生ジ加フルニ四季ニ於ケル該海流勢力ノ消長ハ益々其ノ流過區域ヲ不確實ニ陥ラシメ且ツ九州東南岸ニハ反流ヲ生ジ時季ニ依リ沿岸冷流ノ南下擴張スル在リ爲メニ尠ナクモ大隅群島附近ニ於ケル海流ハ吾人ガ海圖ニ依リ推知スルガ如キ方向(偏東流)速度ヲ示サズ時ニ反對流ヲ起シ亦豫知以上ノ高速度ヲ見ルガ如ク順逆反轉各種ノ變調現象ヲ醸成スルハ從來幾多航海者ヲ憂慮セシメ既ニ艦船ヲシテ遭難擱座ノ厄ニ遇ヘシモノ尠少ナラザル

ニテモ遮般ノ事實ヲ語ルモノト云フベク殊ニ例年春秋兩季ニ於テ變調ニ伴フ溷濁冷流ノ出現ノ如キハ實ニ全方面ニ於ケル重要漁業タル鰹、鮪、鯖、鰯漁業等ニ至大ノ關係ヲ齎ラシ延ヒテ東海方面ニ於ケル鰹鮪鰯漁業ニ對シ其ノ影響ヤ大ナルベキヲ信ジテ疑ハズ

變調流ニ關シテハ大正五年春當時海軍水路部員タリシ海軍大尉鳥居氏ガ鹿兒島海灣實測ノ砌是等ニ關スル調査ヲ行ヒ水路報導第百號(天隅海峽附近ニ於ケル黑潮及變潮流)ニ依リ公示セシモ尙ホ此處ニ變調流ニ伴ヒ出現スル溷濁流ニ關シ主トシテ漁業方面ヨリ調査實測セシ海況ノ變化ニ就キ粗慢ノ嫌ナキニアラザレバ填綴披瀝シ以テ江湖識者ノ批判ヲ仰グト共ニ將來同方面ニ對スル調査研究ノ切要ニシテ且ツ之ガ實行ヲ希フ者也

溷濁冷流ノ出現 大隅並ニ吐噶喇群島附近ハ四季ヲ通ジテ(多少ノ消長アリト雖モ)北偏東ノ暖流(黑潮)ヲ見レバ春秋兩期或ル期間中俄然變調流ノ出現ヲ見ルト全時ニ冷水帶擴張シ海水著シク溷濁狀態トナリ全方面ニ於ケル鰹、鯖漁業ヲシテ一時休止ノ狀態ニ置キ爲メニ順調ナリシ漁況ヲ攪亂シ魚群ハ逸散ヲ見ルコト屢々ナリ而シテ漁業者ハ春季出現スルヲ俗稱「三月濁リ」秋季ニ於ケルモノヲ「十月濁」ト言ヒ之ヲ以テ當然行ハルベキ年中行事ノ一トシテ海龍神ノ漁場大掃除ト稱セリ

一、三月濁 出現期ハ年ニ依リ一定セザルモ例年三月下旬ヨリ四月中旬ニ至ル間出現シ漁業者ハ「陰曆三月三日ノ餅濁」ト稱セリ蓋シ當時ハ必定出現スルヲ意味スルナリ而シテ其ノ溷濁狀態ニ變換スルノ遲速ハ時ニ依リ又場所ニ依リ緩急在リ硫黃島附近ニ於ケル出現狀態ヲ見ルニ最初西北西ノ反流ヲ感ジ次第ニ溷濁狀態ニ入ルモ時ニ反流強裂ナル場合ハ一夜ニシテ溷濁スル實例ハ全方面ヲ涉漁スル鯖釣漁業者ノ目撃スルトコロナリ而シテ溷濁セル海水ヲ檢スルニ初期ニハ殆ンド肉眼ヲ以テ見ラレザルガ如キ微細ナル泥土狀ノ浮游物多數存在シ清透ニシテ紺碧色ヲ呈セル海水ヲ青白色ニ變シ浮游物ハ更ニ時日ヲ經過スルニ從ヒ漸次其ノ大サヲ増シ消散期ニ近クニ至レバ淡赤色ヲ呈セル蠅大ノモノ

トナリテ多數表面ニ浮動シ遂ニ潮流ノ爲メニ逸散ス之レ生物ナルヤ亦泥質ナルヤ檢鏡メ機ヲ得ザリシモ之濁濁状態ニ陥ラシムル主本ニシテ出現初期ニハ著シキ冷水帶ヲ見ルモ漸次潮流順應ニ復シ高温帶ヲ見ルニ及ビ消散スルヨリ考フルニ之レ微生物ノ海水ガ急ニ低温ヨリ高温トナリシ爲メ急激ナル蕃殖作用ト共ニ肥大トナリ水面ニ浮上集合セシモノニアラザルヤヲ疑ハシムル點アリ記シテ以テ後日ノ研鑽ニ譲ラン

出現期間ハ短カキハ二、三日間長キハ二週間ニシテ四月下旬頃ニ至ル迄之ヲ反覆シ殊ニ四月上旬ヲ以テ其ノ現象顯著ニシテ當時ハ表層流ナルノミナラズ中層流ニモ之ヲ見ラル濁濁期間中ニ於ケル潮流方向ハ主トシテ偏西流ニシテ時ニ偏東流ヲ見ルコトアレモ其ノ流速遲緩ナルヲ常トス蓋シ該期間ハ所謂變調流ノ出現期間ナリ

濁濁中ハ鯉群殆ンド逸散シテ釣獲無ク梅吉會根及上屋久漁場ニ於ケル鯖群ハ表面近ク游泳スルモ一般ニ餌付不良ナリ左ニ全期間中各地ノ潮流ニ就キ漁業者ノ談ヲ綜合シタルモノヲ参照セバ

(イ) 佐多岬附近ヨリ馬毛島種子島間ハ潮流ニ變動ヲ起スコト少ク時ニ一日間位偏西流ヲ見ルコトアレモ常ニ南東若クハ東偏北流ヲ見ル

(ロ) 竹島附近ハ偏西流ヲ見ル

(ハ) 屋久嶋「サガリ」會根附近ハ潮汐ノ干満影響ヲ受ケ方向一定スルナキモ海水濁濁ス

(ニ) 野間岬南方十五湮附近ニ於テハ海水濁濁シ西或ハ西偏北流ヲ示ス

(ホ) 開聞岳ヨリ五、六湮沖合ハ潮汐ノ影響ヲ受ケ方向一定セザルモ硫黄嶋ニ近クニ從テ西偏北流或ハ西偏南流ヲ流レ殊ニ全島北方五、六湮附近速度最モ烈シ

(ヘ) 大正五年三月下旬頃川邊郡ノ一鯖釣漁船ガ梅吉會根(鯖釣漁場)ニ向ハント欲シ硫黄島北方ニ於テ強烈ナル西流ニ遭遇シ硫黄島南西方ニ於テハ北東流ヲ受ケ漁場ニ帆走スルニ困却セル事アリシト云フ

(下) 三月濁ノ南方出現區域ニ關シ數十年來鯉釣漁船ニ乘組ミ吐喝喇群島方面ヲ航海セシ老漁夫ノ談ニ依ルニ口之島附近ニ於ケル濁瀾ハ十數日間モ繼續セラル、コトアレハ臥蛇島附近ハ長キモ三日間位ニシテ然モ表面(皮層)ノミ濁瀾シ時ニ全島北方ニ當リ濁瀾水帶ト清透水帶トノ迎合部ニ潮目ヲ生ジ波浪相戰フヲ見ル南方惡石附近ハ平島附近ヨリ二日間位早ク清透ニ復シ更ニ寶島方面ハ少シク濁瀾水ヲ見ルコトアレハ消散敏速ナリ亦西方盲曾根附近ニ於テモ濁瀾水帶ヲ認メラレ強烈ナル偏西流ヲ見ル事アリ

(チ) 宇治島北微東八湮附近ニ於テハ偏西北流ヲ受ケタル後必ズ濁瀾シ亦津倉島西方六湮附近ニ於テ強烈ナル南西流數日間繼續スルヲ見ル

大正五年度鹿兒島縣水産試驗場松島丸ガ梅吉曾根ニ鯖釣漁業試驗施行中三月下ヨリ四月中旬ニ至ル間大隅群島附近ニ於ケル海況ノ狀態ヲ左ニ表示セバ

大正五年 自三月廿四日 至四月廿日 大隅群島附近ニ於ケル海況

觀測月日時	觀測位置	風位風力	氣溫	水溫	比重	透明度	潮流	記	事
三月廿四日 午	硫黄十二島	NW 3	三〇	二〇	一〇一〇	二	1/2	朝來少シク風力衰ヘシモ正午過ヨリ再度増加ヲ示シ硫黄島ニ避難ス日没頃益々強烈トナル爲メニ双錨トス	
三月廿五日 午	硫黄島	NW 5	三〇	二〇	一〇一〇	二	1/2	朝來風力益々強烈トナリ雲行急ナリ午后五時頃ヨリ快晴トナリ風力漸次衰フル傾向ヲ示ス	
三月二十六日 午	右全	ESE 1	一九	二〇	一〇一〇	二	1/2	前夜ヨリ風力全ク衰ヘ朝ニ及ブ午前十一時頃ヨリ東南東ノ軟風吹キ天候快晴ニシテ氣溫上昇ス	
全日 午後六時	梅吉曾根	SE 1	一七	二〇	一〇一〇	二	1/2	硫黄島南西沖合十七湮ノ附近ニハ海鳥並ニ鵜ノ大群ヲ見ル梅吉曾根ニ於テハ潮流最初Nナリシモ其後NEニ向ヘ急ナリ水色ニ二十尋ノ水溫二十度六四十尋下ノ水溫十九度八ヲ示ス	

正五	正四	正三	正四	正四	正三	正三	午全	正二	正二	正二
			月二	月一	十一月	三月	後七	十九	十八	十七
午日	午日	午日	午日	午日	午日	午日	時日	午日	午日	午日
部硫 落黃 下島	北硫 東沖 黃十 湮島	山 川 港	北硫 東十八 黃沖 合島	山 川 港	山 川 港	五知 林北 湮々 沖西	北梅 吉 曾 端根	北硫 東 黃 十五 湮島	谷 山	山 川 港
NW	NW	NNW	ESE	NNE	SE	無 風	WSW	SW	W/N	WSW
5	3	2	3	3	2		1	1	2	2
三〇	一五、五	一九、五	一七、〇	二〇、五	一九、七		一八、五	一五、〇	三、五	一五、〇
							一五、〇			
							二、五			
							一〇、五			
							一五、〇			
							NE			
							2、 $\frac{1}{2}$			

朝來海上平穩ニシテ鹿兒島灣口附近ハ風力弱キ西南西ノ風ナリ
尙灣内ニ入レテ風力西ニ變轉セルヲ見ル

本日天候快晴海上平穩ナリ

朝來天候平穩ニシテ硫黃島北方潮流ハEヨリENEニ向ヒ亦五湮
沖合ニハ多數ノ海鳥飛躍シ鯖群ニ附隨シ居ルモノアリ

梅吉曾根附近一体ニ鯖群多シ海上ニ夜間平穩ニシテ帆船ノ來流
スル能ワズ潮流NEニ急ナリ鯖二千九〇五尾ヲ釣獲ス

前夜硫黃島附近ノ潮流北東ニ急ニシテ速力三湮以上ト推セラレ
本日朝來海上平穩ナリ氣溫著シク上昇ス本日山川灣口附近一体
ニ霞ヲ見ル

朝來曇天トナリ南東風吹き起リ低氣壓襲來ノ如キ狀況ヲ呈ス氣
溫上昇ス

天候奮ニ復セズ終日東北風吹き海上波浪高シ氣溫少シク上昇ス

鹿兒島灣口附近ハ北ノ微風ナレテ硫黃島附近ハ南東風吹き海上
高浪ナリ

天候不穩鹿兒島灣口附近ハ北東風吹き時々降雨ヲ見ル

朝來平靜ナリシモ正午ヨリ北西風起リ硫黃島北側高浪ナリ

終日北西風強烈ニシテ硫黃島附近高浪ナリ

變調流下溜濁水帶

正四月十三日 午日	全七時 日	正十二 日	正四月十一日 午日	正四月十日 午日	全七時廿分 日	正四月九日 午日	正四月八日 午日	正四月七日 午日	全六時十五分 日	正六日 午日		
谷山港口	梅吉曾根	硫黃島北東二分ノ一東沖十五裡	鹿兒島瀨灣	山川港	梅吉曾根	硫黃島二十湮島	鹿兒島港	山川港	梅吉曾根	右全		
W 1	S/E 2	S/E 1	WNW 2	SW/W 3	S/E 3	S/E 2	SE 1	S/E 3	WSW 1	WSW 1		
170	110	198	110	175	170	135	155	130	155	110		
	110				101				195			
	100				100				100			
					110				110			
	N/W				NE				NNW			
					緩				急			
<p>翌朝ニ入り降雨ニ變シ釣獲又振ラズ潮流北々西ニ向フ</p>			<p>荒天ニシテ山川港ニ碇泊ス</p>			<p>平穩</p>			<p>午前中南西風ニ變轉シ微風トナリ海上平靜ナリ</p>			
<p>方ニハ釣獲稀メテ振ラザリシガ午後九時頃ヨリボツ／＼釣獲アリ漁場附近多少溜濁ヲ呈シ補充著シ一〇六尾ヲ釣獲ス</p>			<p>鹿兒島瀨灣口附近ハ朝來濃霧トナリ附近一帶水温ノ下降著シク開闢岳沖合ハ南群ハ西風強シ</p>			<p>山川出帆梅吉曾根ニ向フ途中南微東風起リ午後二時頃硫黃島北側附近ニ少シク清透水帶ヲ見タルモ梅吉曾根附近ハ一体ニ海水溜濁ス漁場ニハ數多漁船ノ從漁セルモノアレバ釣獲振ラズ本船ハ午後九時迄從流シ僅ニ二十二尾ヲ獲シタルノミ</p>			<p>朝ニ入ルル南風漸次強ク海上ハ高浪ヲ見ル途中山南西向ヲトル海水ノ溜濁著シ午後二至リ風南西微南ニ變轉ス鯖壹千十尾ヲ漁獲ス</p>		<p>鯖ノ群來多キモ餌付不良ニシテ水面近クテ游行飛躍スルノミ翌附近ノ潮流南風漸次強ク海上ハ高浪ヲ見ル途中山南西向ヲトル海水ノ溜濁著シ午後二至リ風南西微南ニ變轉ス鯖壹千十尾ヲ漁獲ス</p>	

正四月十四日 午時	正四月十五日 午時	正四月十六日 午時	全四月十七日 午後七時	全四月十八日 午後七時二十分	正四月十九日 午時	正四月二十日 午時	正四月二十一日 午時	正四月二十二日 午時	正四月二十三日 午時
山川港	山川港	北硫々東十連島	梅吉曾根	大川浦	沖開岳南西微西十二連	梅吉曾根	山川港	梅吉曾根	梅吉曾根
ENE	NNE	S/E	ESE	SW	SSE	SSE	N/E	S	S
1	5	1	0	2	2	2	1	1	1
		一七〇	一六五	一九〇	三三〇	三三〇	二五〇	三三〇	三三〇
			一九〇		三三〇	三三〇	二五〇	三三〇	三三〇
			二〇〇		二四〇	二四〇	二五〇	二五〇	二五〇
			E/N		ENN			NNE	NNE
			急		緩			急	急
降雨海上風波稍々高シ	風浪高シ	山川出帆流場ニ向フ途中湯瀨附近ヲ通過セシニ其ノ南側ニ於テ艦ノ大群ニ遭遇シ海水著シク清透ナリ	梅吉曾根附近ハ海水濁濁シ鯖餌付不長ナリ八百三十一尾ヲ釣獲ス本日頭ヨリ漸次附近ノ海水清透トナルモノ、如シ	海上小波アリ	正午ヨリ南風次第ニ強烈トナリ硫黄島附近高浪トナル本日高浪ニシテ且ツ餌付不長海水少シク清透トナル 鯖七十四尾ヲ釣獲ス	海上稍々風浪アリ	海況良好ニ向ヒ鯖一六二尾ヲ漁獲ス		

濁濁水消散シ清透水帯ニ變ズルニ變リテハ最初東或ハ東偏北流起リ暖水帯南方ヨリ擴張シ來リ（下層水ノ變動ニ關シテハ遂ニ觀測ノ機ヲ得ズ）前記浮游物ヲ運ビ去ルト共ニ早ハ二日間遅キモ一週間内外ニシテ清透海水ト變ズ而シテ其ノ消散ニ際シテハ沖合各所ニ強大ナル潮目ヲ激成シ或ハ清濁兩水帯ノ混合散在スルヲ常トス此處ニ大正五年度硫黄島

西南方沖合ニ於テ觀測セシ現象ヲ示セバ

海洋觀測表

觀測月日	觀測時間	番位置	天候	氣溫	水面	比表面	風風	潮流	記
大正五年 四月十二日	午後三時卅五分	イ	霧	10.0	10.0	10.0	ESE S/E S/E	W 1 1/2	變調溷濁流ノ消散期ニ近ツキ、アル際 逐次消散シツ、アル際(向後鰹魚活況ヲ呈ス)
全日	全五時十分	ロ	霧	10.0	10.0	10.0	S/E S/E	ESE W	
四月十六日	全四時	ハ	晴	17.0	19.0	10.5	ESE S/E S/E	NW ESE W	

此ノ表ニ就テ見ルニ南方ヨリ勢力ヲ増シ來レル東偏北流ガ島嶼淺礁ニ衝突シ反轉スルト共ニ附近ニ殘留セシ冷水帶ト接觸シツ、アルモノ、如ク殊ニ當時硫黃島北側ニ於テ清透水帶ヲ見更ニ航走シテ此ノ現象ヲ見更ニ梅吉會根ニ至リテ少シク清透水帶ニ會スル等益々海況ヲシテ複雑ナラシムルモノアリ溷濁期間中ニ在テ時ニ南風ニシテ連續三日間モ起ルルハ北東海流ヲ生ジ稍ヤ清透水帶ニ變ズルコトアレ北西風起ランカ再ビ溷濁状態ニ轉ズ要スルニ溷濁水帶ハ南西沖合ニ進ムニ從ヒ表層ニ止マルガ如ク推知セラル、點アリ漁業者ハ消散状態ニ就キ「一定セザルモ一般ニ沖合ヨリ清透トナル傾向ヲ有ス」ト稱セリ

二、十月濁 例年陰曆十月上旬ヨリ下旬ニ亘リ出現スルヲ以テ此ノ稱アリ超エテ十一月ニ入ルヤ全ク清透ニ復ス其ノ期間約三十日間ニシテ其ノ出現状態春季ノ夫レト大同小異ナルモノ、如ク只其ノ溷濁ノ範圍稍ヤ狭小ニシテ遠ク臥蛇ドノコ會根附近ニ及ブコト稀ナリ然モ漁業上之ガ影響ヲ見ルハメクラ會根附近ニ於ケル鰹漁場及川邊沿岸ニ於ケル小釣漁業ノミナルヲ以テ特ニ漁業者ハ注意ヲ喚起スルコト前者ニ較フレバ少シ各地ニ於ケル漁業者ノ話ヲ綜合セバ

(イ) 坊岬西南七、八湮沖合ニ於テハ偏西流ト東偏流トノ割合二トトノ如ク一般ニ速度急ナル西潮ヲ見之レ必ズ濁濁水帯ヲ伴フ偏東流ハ之ニ反シ濁濁ヲ減ズ

(ロ) 宇治黒島西島沖合ハ急激ナル潮流ヲ見ザレモ概シテ南方ニ走ルモノ、如シ

(ハ) 黒島附近ニ於テハ期間中潮流ヲ見ザレモ清透水帯ニ變換スルニ際シテ東々偏南流ノ急ナルヲ見ル

(ニ) 草垣島附近ニハ南向流多シ

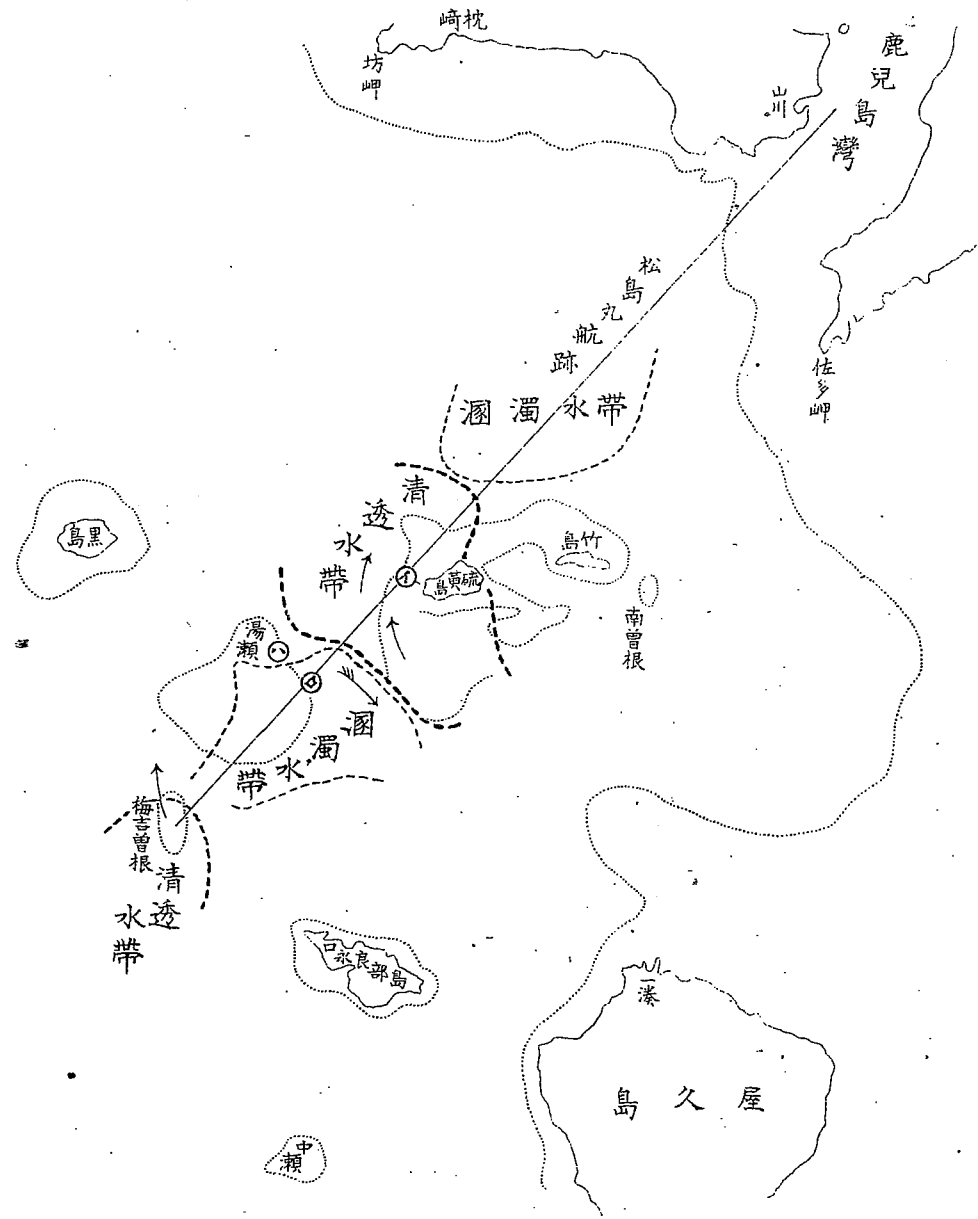
此ノ外消散期タル陰曆十月下旬ニ於テ甌島附近ニ於テ難破船アレバ多ク種子島西之表附近ニ漂着スル等略ボ「三月濁」ニ似タル點ヲ有ス唯消散状態ニ關シ漁夫ハ「沖ヨリ濁リ」「岸ヨリ清透」トナルト稱セリ、次ニ大正五年十一月上旬ヨリ十二月上旬中鹿兒島縣水産試驗場技手熊谷七郎氏ガ所屬漁船竹島丸ニ乗ジ大隅群島附近ニ鱧延繩漁業試驗中表面觀測ヲ手記セシモノヲ掲ゲテ參考トナス

觀測日日	位 置	天候	風風 力位	氣 溫	水 表		方 向	潮 流
					溫	比		
正十一月一日 午後五時十五分	エラブ西端ナN屋久島矢ハシ岬 口ノ島北岸二分一湮沖合、 NE/E	B・C	N 1	三〇・〇	二四・〇	一・〇五九九	E	急
全 十一月二日 午前八時	全 所	C	E 1	二七・七	二四・七	一・〇三九九	NE	急
正全 十一月十四日 午前八時	永田燈臺 NE エラブ東端 NNE 口ノ島北端一湮沖合	BC	E 2	三三・〇	二五・〇	一・〇三六五	E	全
正十一月十八日 午前	永田燈臺下	B	N 1	三〇・〇	二五・五	一・〇四〇〇	NE	暖

正十一月廿二日 午	正十一月廿五日 午	十一月廿七日 午後三時	正十二月三日 午	正十二月六日 午
中ノ島北東岸一渾沖合	鹿兒島灣口股灣附近	屋久島參生東南三渾沖	黑島 エラノ里崎ナ NE	却井岬 NE/N 佐田岬ナ N/S
B	B	BC	B	BC
N	W	NE	NE	NE
1	1	4	2	2
110.0	10.7	19.9	10.5	10.7
114.5	11.7	11.1	11.0	11.7
1.063	1.068	1.063	1.054	1.056
SSE	不	F	NE	NE
急	定	全	全	急

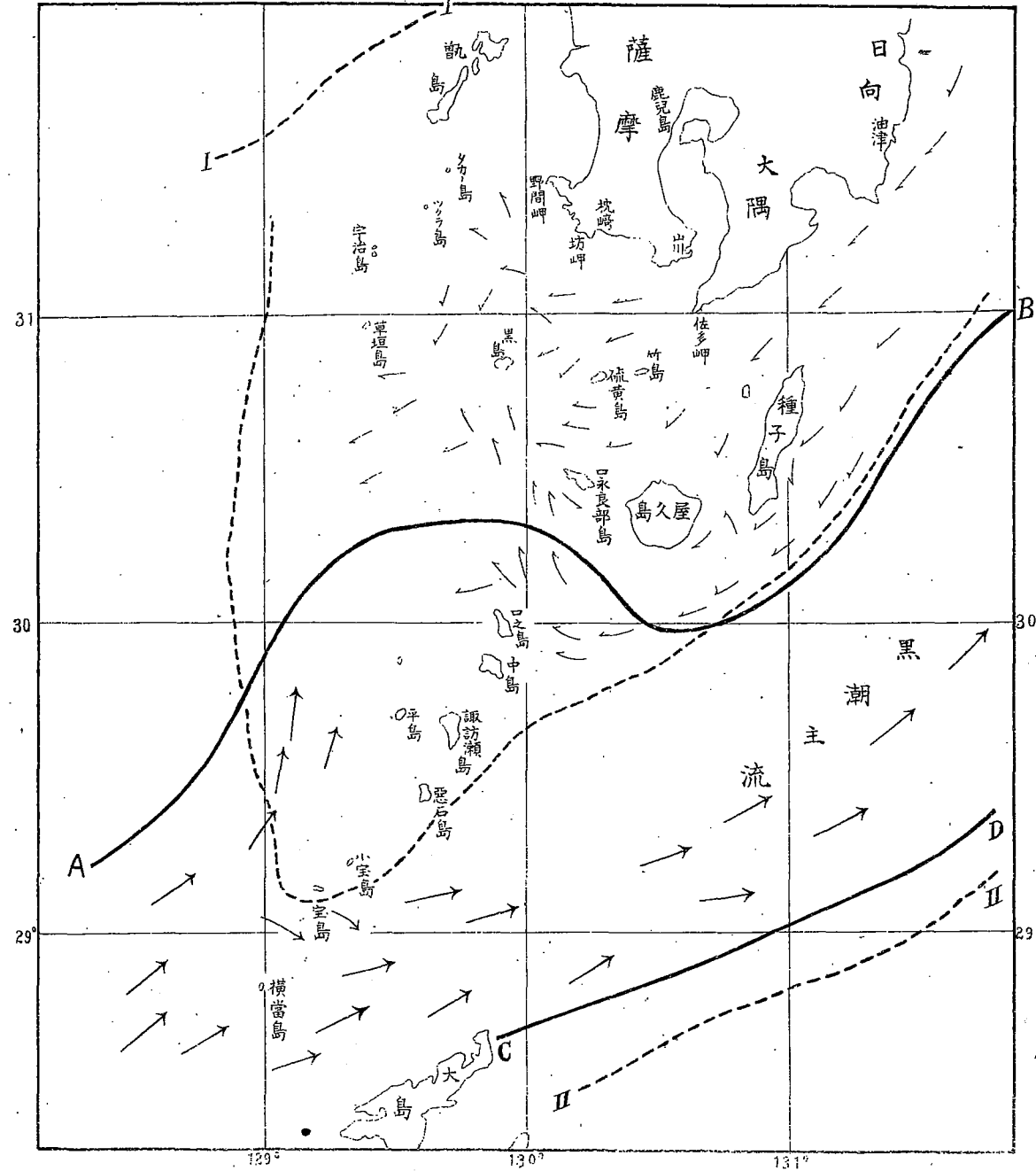
三、瀬濁水帯及變潮流ノ出現原因ニ就テ叙上諸事實ヲ綜合スルニ瀬濁水帯ノ發生ハ水理生物學上種々推測ニ難カラザルモノアリト雖モ變潮流出現ニ至大ナル影響ヲ有スルハ爭フベカラザル事實ナリ亦變潮流出現ハ沿岸冷水帯ノ擴張ニアルハ諸種ノ點ヨリ見テ是認セラル、所ナリ（鳥居大尉ハ四國及豐後水道附近ニ於ケル溫度比重ノ少ナル白濁色ノ海水ト稱セリ）果シテ然ラバ沿岸冷水帯ノ擴張ノ原因ハ奈邊ニ在ルヤ天候ニ屈托シ流行風轉嫁シテ之ガ注解ヲ試ミント欲スルモ充分ナル憑據ヲ得ルニ苦ミ尙迷々裡タラザルヲ得ズ然ルニ此處ニ本邦附近ニ於ケル氣壓ノ配置移行ハ偶然變潮流出現期ト一致スベキモノアリ即チ冬季久シク大陸ニ滯留シ九州方面ニ強烈ナル北西風ヲ送りシ高氣壓部位ガ上海附近ヨリ黃海ニ移動シ更ニ九州南部ヲ横過シテ（當時九州南部ニ濃霧起ル）太平洋上ニ出動スルコト屢々ニシテ之ト全時ニ太平洋上ニ在リシ低氣壓ガ消散シテ支那大陸附近ニ出現スル所謂氣壓變換期ニ相當スルナリ（秋季ハ此ノ反對ノ現象トナル）或ハ此ノ變換ガ地形ト關連シ沿岸水ノ南下移動ヲ導キ變調現象ヲ呈セシニアラザルヤ勿論氣壓發生潮流ノ變動ニ關シテ其ノ何ガ從タルヤ主タルヤ窺知スベカラザルモ氣壓傾度ノ大小ハ或ル一局部ニ對シ何カノ變動ヲ與フルニ關シテハ亦鑽ラ惜ムモノニアラズ

濁濁冷流散二期於此島附近海况圖



變濁流出現圖

一 黑大線ABCD線內上月中旬表
面水溫主度以上を示
大正四年上旬得換丸調査
二 黑大線III線內西南信風
季中於此黑潮優勢區域
島居海軍大尉調査
三 黑大線變調流出現當
時黑潮
四 黑細矢線變調冷流出現
狀態
以上島居海軍大尉調査
五 黑細矢線以下包圍區域
濁濁冷水帶擴張狀況推知
セルモノ



講習指導

船匠講習

近時沖合漁業ノ發達ニ伴ヒ漁船ノ改良ヲ急務トシ船匠ノ技能ヲ向上セシムルタメ大正五年度ヨリ實技講習會ヲ開催セ
 ルガ其効果著ルシク本年度ハ長崎市ヨリ熟練ナル船匠橋本藤平ヲ聘シ大正六年八月一日ヨリ四十日間川邊郡東南方村
 枕崎ニ於テ十二噸級遠洋漁船ニ就キ同十一月二十六日ヨリ六十日間同郡西南方村坊ニ於テ二十噸級鯉漁船ニ就テ實技
 講習ヲ爲サシメ左ノ修業生ヲ出セリ

川邊郡東南方村枕崎 篠原 誠造 同郡西南方村泊 原 豐 作
 同 西南方村坊 折田善太郎 同 鮫島甚左衛門

鯉節製造講習

川邊郡東南方村枕崎本場附屬製造ニ於テ男十名女九名ヲ收容シ五月一日ヨリ十月末日迄六ヶ月間講習ヲナセリ修業者
 左ノ如シ

(男子)		(女子)	
住 所	姓 名	住 所	姓 名
川邊郡東南方村枕崎	立石駒次郎	川邊郡東南方村枕崎	中釜マエエ
全	立石政助	全	丸谷フヂエ
川邊郡西南方村	木場榮次郎	全	岩 元 タネ
全郡東南方村枕崎	山神矢一	全	前山トメギク
全	原村政助	全	茶圓アサエ

揖宿郡山川村	今村 賦助	全	木場 カル
全	西 喜代二	全	茶屋道 ハル
全	西 榮之助	全	茶屋 タツミ
全	松山 榮造	全	天達 チエ
全	戸田 正行		

尙本期間ニ於テ縣立商船水産學校ノ委托ニヨリ水産科三年生ニ鯉節製造ノ實習ヲナサシメタリ

鯉節雜節連成裝置指導

本年中川邊郡東南方村枕崎山ノ内嘉也全茶圓末吉全入野正八郎全家弓正右衛門氏ノ請求ニヨリ鯉節製造工場及焙乾室九室連竈七基ノ築設指導ヲナシ又薩摩郡上甌村中甌藏元諭吉ノ請求ニヨリ雜節製造工場及焙乾室二室連竈一基ノ築設指導ヲ爲シタリ

布糊製造指導

本年度ニ於ケル製造指導地ハ熊毛薩摩川邊日置肝屬ノ五郡ニシテ合計十四ヶ所トナリ七月十三日ヨリ十月六日ニ至ル期間ニ施行シ供用原藻一萬四千七百餘斤ニ上リ前年ニ比スレバ正ニ倍加スルノ勢ヲ示シ之ニ從事シタルモノ三百七十四名ノ多キニ達シタリ

左表ハ其ノ狀況ヲ示スモノナリ

郡名	專項	地方名	期間	原藻扱高	講習者
熊毛郡		北種子村西ノ表	自七月十三日 至全二十三日	一、五〇〇斤	三十一名

表中青瀬及手打ハ製造終リタル爲メ荷造其他ノ指導ヲナシタルモノナリ

本縣布糊ハ本場ノ創始ニ起リ本場之ヲ育成シタル關係アリ又當時當業者ノ智識頗ル幼稚ナルモノアリタル爲メ從來ハ指導ノ範圍ヲ擴大シ本場自ラ需給兩者ノ間ニ立チテ製品ノ取引仲介ニ任シ來リタルモ近事關係事項激増シ場務ノ暇ヲ以ラシテハ往々取扱上遺憾ノ點保シ難キモノアリ一面當業者ノ實力涵養便宜トナルヲ以テ從來ノ方法ハ前年限リ廢止シ本年ヨリハ本場ハ單ニ注文ヲ當業者ニ傳達シ事後ヲ當業者各自ノ計ニ任ズル事トシタリ此ノ結果取引行動ハ豫期以上輕快敏速トナリタルモ之ニ伴ヒ掛引盛ニ行ハレ賣込ヲ競争シ延テ價格ハ亂調トナリテ需要者ヲシテ多少慊焉タラシメタル疑ナキニアラズ大勢ノ不利ヲ招來セン事ヲ恐レ大正七年三月當業者ヲ會シ節制アリ統一アル行動ヲ執ル方法ニ就キ協議スル處アリ遂ニ主トシテ製品ノ共同販賣ヲ目的トシタル鹿兒島縣布糊組合ノ成立ヲ告ゲ其ノ機關トシテ縣外樞要ノ地ニ組合代理店ヲ設置シタルヲ以テ能ク如上ノ弊ヲ一掃シテ益々前途ノ光明ヲ認ムルニ至レリ

海苔製造講習

大正七年一月二十二日ヨリ同二十五日ニ至ル間揖宿郡顯娃村十町ニ於テ同村漁業組合ノ要請ニヨリ岩海苔抄製ヲ同二十九日ヨリ二月二日ニ至ル間鹿兒島郡吉野村龍ヶ水ニ於ケル全郡主催青海苔製造講習會ニテ青海苔、あをさノ各種處理製法ヲ二月九日ヨリ同十七日ニ至ル間川邊郡西南方村ノ要請ニ基キ抄海苔及佃煮製法ヲ二月二十四日ヨリ同二十七日ニ至ル間薩摩郡上甕村農事小組合ノ要請ニヨリ同地ニテ抄海苔製造ノ講習ヲ爲セリ

蒲鉾製造講習

蒲鉾製造ノ改良ヲ圖リ原料採擇ノ範圍ヲ擴ムル目的ノ下ニ神戸市ヨリ熟練ナル職工佐野新太郎ヲ聘シ大正六年十一月十三日ヨリ同十二月二十五日迄日置郡串木野村本浦ニテ當業者二十六名ニ大正七年一月十六日ヨリ同二十三日迄川邊

郡東南方村枕崎ニ於テ當業者七名ニ對シ實技傳習ヲ主トシ講習セリ修業セシモノ、氏名左ノ如シ

日置郡串木野村下名

氏名		氏名		氏名	
佐拔休藏	淺谷武二	若松貞市	南竹太之助	中尾盛之助	吉尾藤藏
中尾淺市	若松半助	中原常市	中尾宗助	松田笹市	吉尾スミ
坂元政吉	濱田泰藏	濱松源太郎	若松傳太郎	中原久之助	江藤盛太郎
清水傳之助	濱松慶藏	吉尾藤喜	栗山甚太郎	山元由太郎	兒島十助
栗山愛吉	竹下順市		川邊郡東南方村枕崎		
山下清吉	立石キミ	萩原ウメ			
中釜ユキエ	市田長助	田中政助			
濱田シカ					

大正八年三月廿五日印刷
大正八年三月卅一日發行

鹿兒島縣水產試驗場

鹿兒島市金生町三十七番地

印刷人 佐々本伊四郎

鹿兒島市金生町三十七番地

印刷所 佐々木龍勢堂

